平成２３年度

川島町町民意識調査報告書

＜保存版＞

平成２３年１２月

川島町

＜目　　次＞

１　調査の概要　……１

２　全体集計
・ 基本属性　……２～６
・ まち全体の印象について　……７～９
・ 環境問題について　……１０～１２
・ 保健・福祉について　……１３～１８
・ 土地利用について　……１９～２１
・ 農業について　……２２～２４
・ 生涯学習について　……２５～２７
・ 安全、安心なまちづくりについて　……２８～３５
・ 自治、コミュニティについて　……３６～３７
・ まちづくりについて　……３８～３９
・ 購買行動について　……４０～４５
・ 特定の行政分野について　……４６～６０
①広報かわじまと川島町公式ホームページ
②ぐるっと川島巡回バス
③役場本庁舎の建設

調査の概要

この調査報告書は、集計結果を基に設問ごとに町民の意識を調査し、とりまとめたものです。

１　調査の目的

この調査は、これからの町政施策を検討するうえで、広く町民のニーズを把握するとともに、町民のまちづくりに関するご意見、要望等を町の行政運営に反映させるため、2008 年に引き続き実施したものです。

２　調査の方法

（１）調査地域　　川島町全域
（２）調査対象　　町内在住の 20 歳以上の住民（2011 年 8 月 1 日現在）
（３）抽出方法　　住民基本台帳から無作為抽出
（４）標本数　　2,000
（５）調査方法　　郵送法（郵送配布、郵送回収）
（５）調査期間　　2011 年 8 月 1 日～8 月 19 日

３　調査の内容

①基本属性（性別、年齢、居住年数、地区、職業）　②まち全体の印象
③環境問題　④保健・福祉　⑤土地利用　⑥産業
⑦生涯学習　⑧安全・安心なまちづくり　⑨自治・ｺﾐｭﾆﾃｨ活動
⑩まちづくり　⑪購買行動　⑫特定の行政分野

４　回収結果

回収数　912　　回収率　45.6％

５　数字の見方

（１）結果集計における構成比はすべて百分率（％）で表し、小数点以下第２位を四捨五入して表示しています。このため、構成比率の合計が 100％を上下することがあります。
（２）回答の比率（％）は、その質問の回答者数を基数（N）として算出しています。そのため、複数回答の設問は、すべての比率を合計すると 100％を超えています。
（３）前回調査との対比（％）は、その質問の回答者数を前回（2008 年）の回答者数で除したもので、前回からの伸び率になります。

基本属性

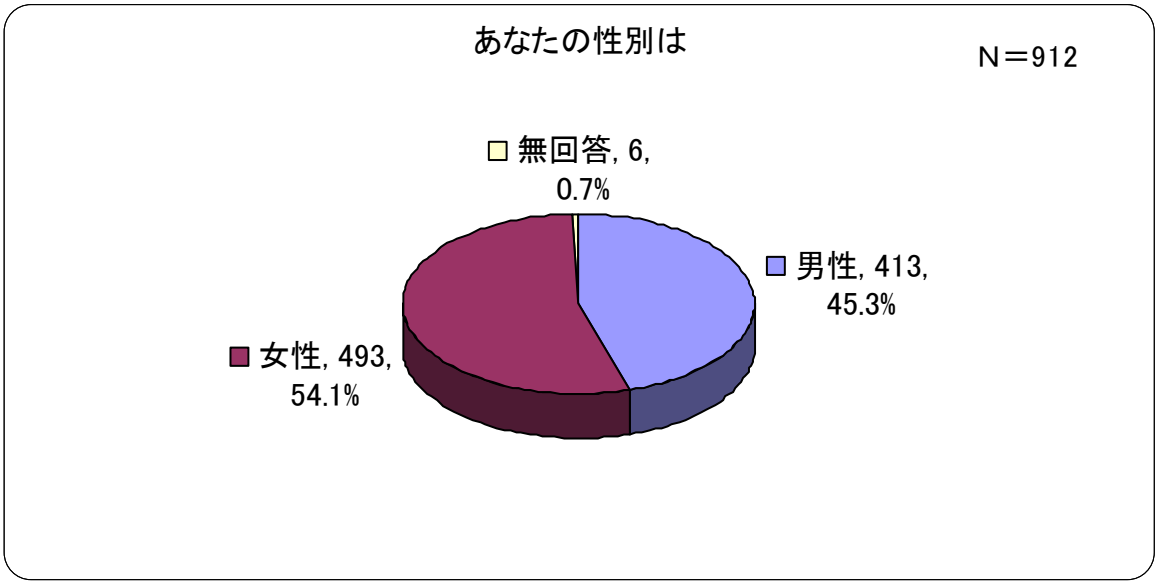
1　あなたの性別は

回答者の性別については、男性 45.3%、女性 54.1%となり、女性の回答が 8.8 ポイント多い結果となった。

前回調査との比較では、若干ではあるが、男性の回答率が向上している。

項　　目	標本数(人)	2011 調査			2008 調査	前回調査との対比
		回収数(構成比)		性別回収率	回収数	
1　男性	1000	413	(45.3%)	41.3%	401	103.0%
2　女性	1000	493	(54.1%)	49.3%	509	96.9%
無回答	—	6	(0.7%)	—	12	50.0%
合計	2000	912	(100.0%)	—	922	98.9%

※ 標本数に対する男女別回収率



※ 男女別回収人数及び構成比

単位：人

２　あなたの年齢は

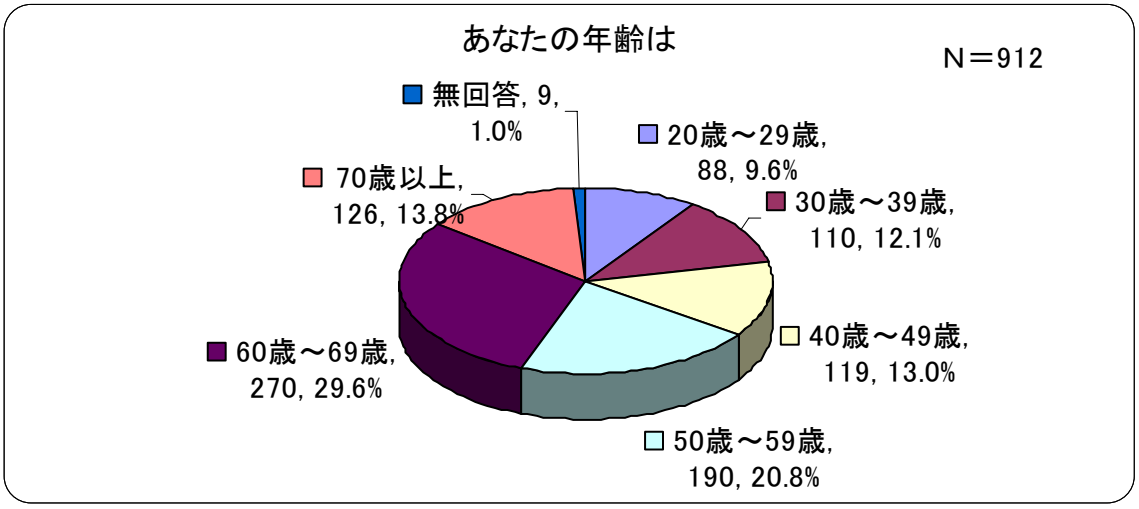
回答者の年齢については、年齢別の人口構成の多い 60 歳代の回答率が 29.6%と一番多く、次いで 50 歳代が多い結果となった。しかしながら、20 歳代は 9.6%と低い回答率となった。

標本数が年齢により異なるため、年齢別の回収率で見ると、60 歳代が 59.0%、次いで 70 歳代が 58.1%となっている。20 歳代では、29.6%と低い回収率となった。

前回調査との比較では、若干ではあるが、20 代・60 代の回答が増加している。

項　　目	標本数（人）	2011 調査			2008 調査	前回調査との対比
		回収数（構成比）		年代別回収率	回収数	
1　20 歳～29 歳	297	88	（ 9.6%）	29.6%	76	115.8%
2　30 歳～39 歳	317	110	（12.1%）	34.7%	139	79.1%
3　40 歳～49 歳	300	119	（13.0%）	39.7%	129	92.2%
4　50 歳～59 歳	411	190	（20.8%）	46.2%	251	75.7%
5　60 歳～69 歳	458	270	（29.6%）	59.0%	195	138.5%
6　70 歳以上	217	126	（13.8%）	58.1%	127	99.2%
無回答	―	9	（ 1.0%）	―	5	180.0%
合計	2000	912	（100.0%）	―	922	98.9%

※ 標本数に対する年齢別回収率



※ 年齢別回収人数及び構成比

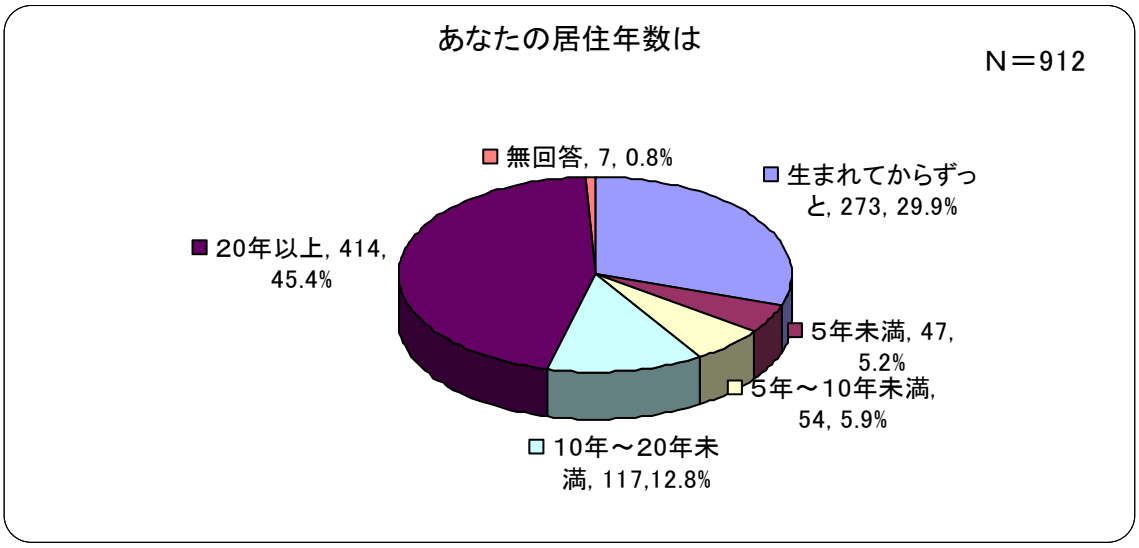
単位：人

３　あなたの居住年数は（川島町内在住年数）

回答者の居住年数については、「20 年以上」居住している方が 45.4%と一番多く、次いで「生まれてからずっと」と回答した方 29.9%と合わせると約 75%となり、比較的長年、川島町に居住している方が多い結果となった。なお、居住年数が比較的短い 5 年未満の方は 5.2%であった。

居住年数に関しては、前回調査と大きな変化は見られなかった。

項　　目	2011 調査		2008 調査	前回調査との対比
	実数（人）	構成比	実数（人）	
1　生まれてからずっと	273	29.9%	271	100.7%
2　5年未満	47	5.2%	48	97.9%
3　5年～10 年未満	54	5.9%	65	83.1%
4　10 年～20 年未満	117	12.8%	152	77.0%
5　20 年以上	414	45.4%	382	108.4%
無回答	7	0.8%	4	175.0%
合計	912	100.0%	922	98.9%

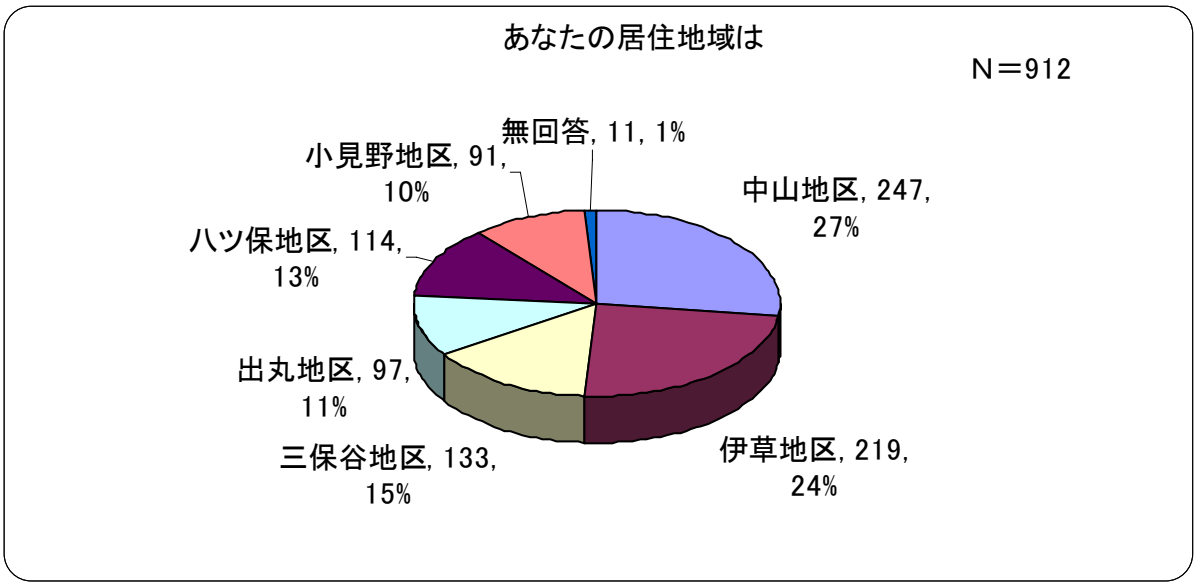


4　あなたの居住地区は

回答者の居住地区については、行政区別の人口構成が多い中山地区が 27.1%と多く、次いで、伊草地区が 24.0%となった。なお、標本数が各地区により異なるため、地区別の回収率で見ると、三保谷地区が 53.2%と一番多く、次いで出丸地区 46.2%となっており、小見野地区が比較的低い回収率となった。

項目 項目	2011 調査			2008 調査	前回調査との対比
	標本数（人）	回収数（構成比）	回収率	回収数	
1　中山地区	550	247　（27.1%）	44.0%	242	102.1%
2　伊草地区	510	219　（24.0%）	42.2%	215	101.9%
3　三保谷地区	250	133　（14.6%）	46.8%	117	113.7%
4　出丸地区	210	97　（10.6%）	46.2%	97	100.0%
5　八ツ保地区	250	114　（12.5%）	52.8%	132	86.4%
6　小見野地区	230	91　（10.0%）	48.7%	112	81.3%
無回答	―	11　（1.2%）	―	7	157.1%
合計	2000	912　（100.0%）	―	922	98.9%

※標本数に対する地区別回収率

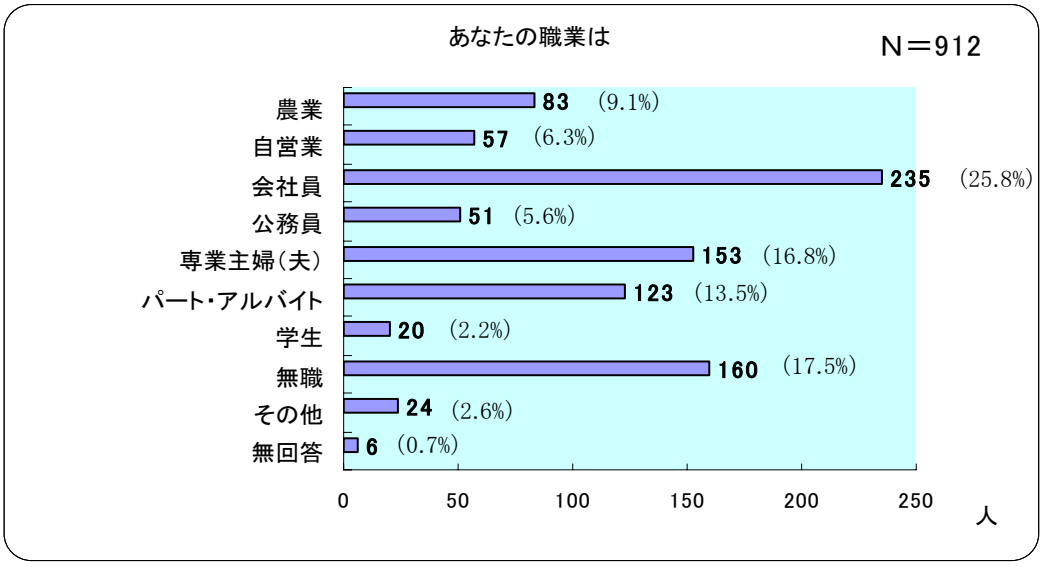


※地区別回収人数及び構成比

５　あなたの職業は

回答者の職業については、「会社員」と答えた方が 25.8%と一番多く、前回調査と同様の結果となった反面、11.9%であった「無職」が、今回の調査では 17.5%となり次いで多い結果となった。これは、60 代からの回答率が高くなったためと思われる。続いて「専業主婦（夫）」16.8%、「パート・アルバイト」13.5%となっている。なお、「農業」と回答した方は 1.2%下げて 9.1%となった。

項　　目	2011 調査		2008 調査	前回調査との対比
	実数（人）	構成比	実数（人）	
1　農業	83	9.1%	95	87.4%
2　自営業	57	6.3%	75	76.0%
3　会社員	235	25.8%	232	101.3%
4　公務員	51	5.6%	58	87.9%
5　専業主婦（夫）	153	16.8%	161	95.0%
6　パート･アルバイト	123	13.5%	140	87.9%
7　学生	20	2.2%	17	117.6%
8　無職	160	17.5%	110	145.5%
9　その他	24	2.6%	26	92.3%
無回答	6	0.7%	8	75.0%
合計	912	100.0%	922	98.9%



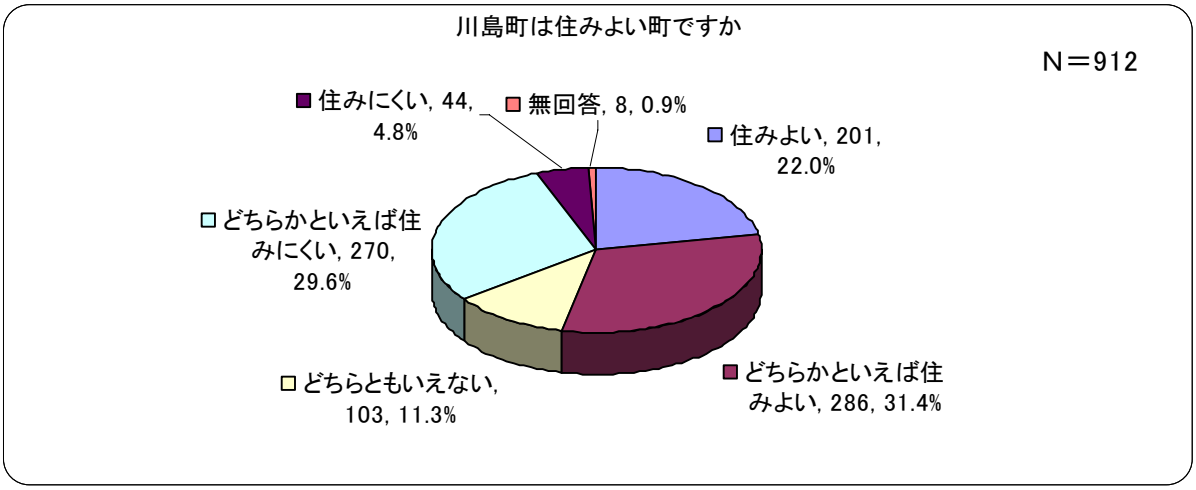
まち全体の印象についておたずねします。

問１　あなたにとって川島町は住みよいまちですか。（答えは１つ）

問１の質問に対しては、「どちらかといえば住みよい」と回答した方が一番多く 31.4%、「住みよい」と答えた回答者 22.0%を合わせると過半数を超える結果となった。しかしながら、「どちらかといえば住みにくい」または「住みにくい」と回答した方の合計も 34.4%となった。

前回調査との比較では、「住みよい」が約 4%増加した反面、「どちらかといえば住みにくい」と回答した方も約 4%増加しているため、全体的には大きな変動は見られない。

項　　目	2011 調査		2008 調査	前回調査との対比
	実数（人）	構成比	実数（人）	
1　住みよい	201	22.0%	167	120.4%
2　どちらかといえば住みよい	286	31.4%	311	92.0%
3　どちらともいえない	103	11.3%	139	74.1%
4　どちらかといえば住みにくい	270	29.6%	238	113.4%
5　住みにくい	44	4.8%	46	95.7%
無回答	8	0.9%	21	38.1%
合計	912	100.0%	922	98.9%



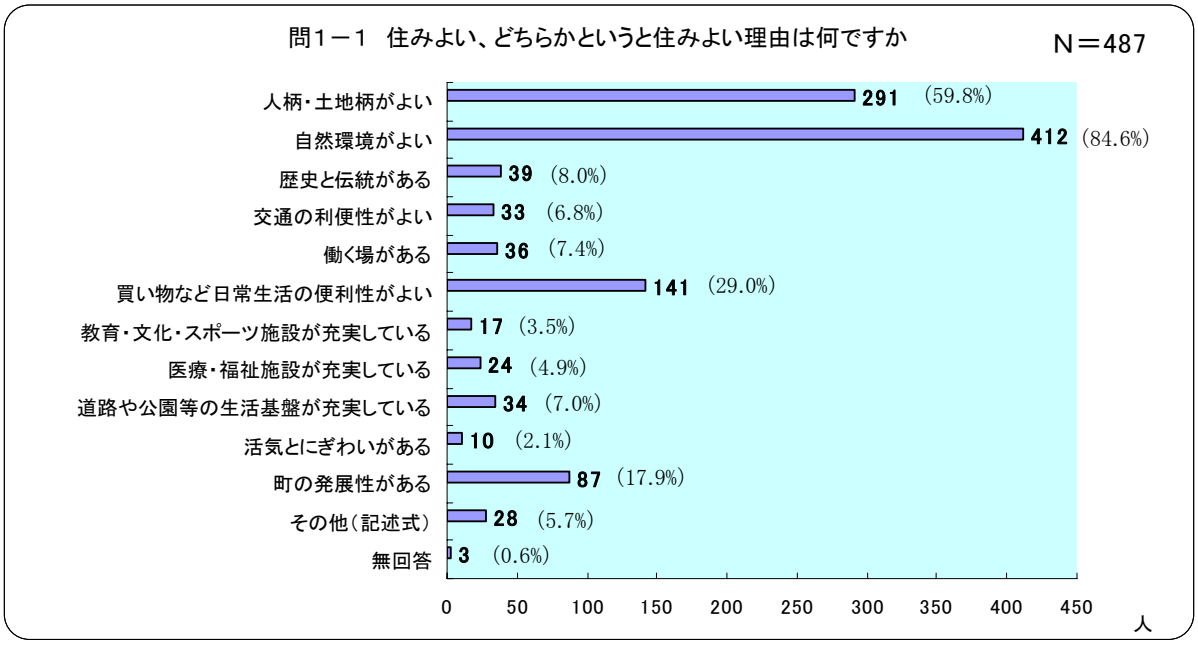
問１-１　問１で、住みよい、どちらかといえば住みよいと答えたかたにおたずねします。その理由は何ですか。（主なものを３つまで）

問１で「住みよい」、「どちらかといえば住みよい」と回答した 487 人に「その理由は何ですか」と質問したところ、複数回答ではあるが、「自然環境がよい」と答えた方が一番多く 84.6%、次いで「人柄・土地柄がよい」と回答した方が 59.8%となったが、「買い物など日常生活の利便性がよい」と答えた方も 29.0%と多く、「町の発展性がある」と答えた回答者も比較的多かった。

前回調査との比較では、大きな変化は見られなかった。

項　　目	2011 調査		2008 調査	前回調査との対比
	実数（人）	構成比	実数（人）	
1　人柄･土地柄がよい	291	59.8%	268	108.6%
2　自然環境がよい	412	84.6%	385	107.0%
3　歴史と伝統がある	39	8.0%	34	114.7%
4　交通の利便性がよい	33	6.8%	49	67.3%
5　働く場がある	36	7.4%	37	97.3%
6　買い物など日常生活が便利性がよい	141	29.0%	121	116.5%
7　教育･文化･スポーツ施設が充実している	17	3.5%	19	89.5%
8　医療･福祉施設が充実している	24	4.9%	22	109.1%
9　道路や公園等の生活基盤が充実している	34	7.0%	32	106.3%
10　活気とにぎわいがある	10	2.1%	2	500.0%
11　町の発展性がある	87	17.9%	89	97.8%
12　その他（記述式）	28	5.7%	33	84.8%
無回答	3	0.6%	16	18.8%
合計	1155(487)	237.2%	1107(478)	104.3%

（　）内は回答者数



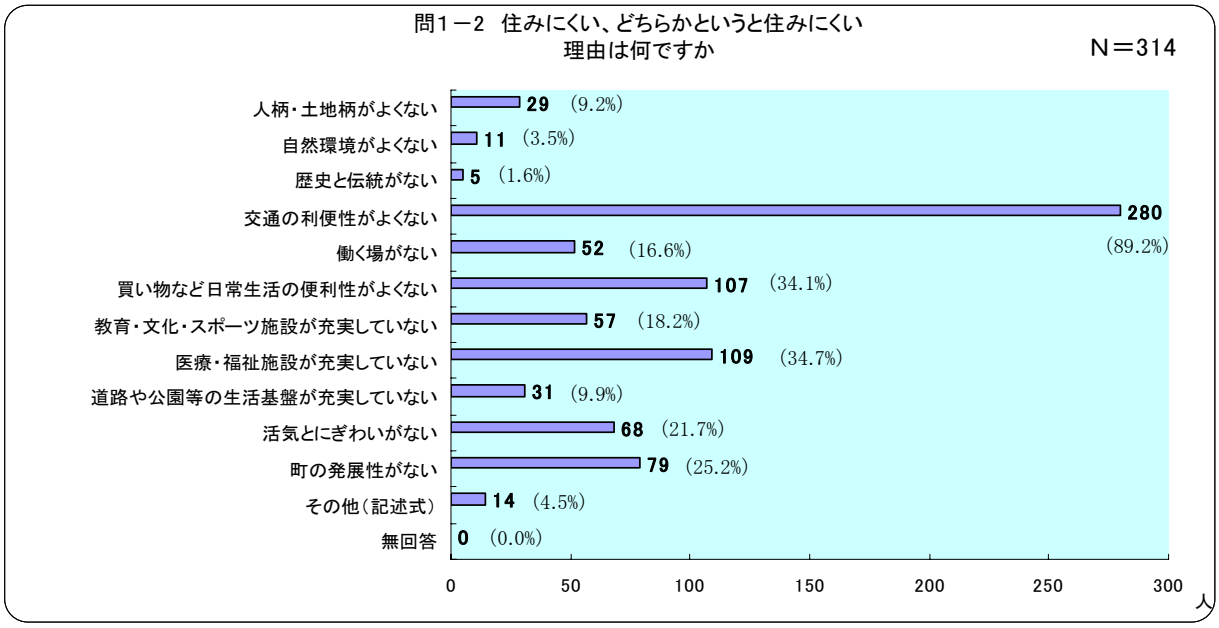
問１-２　問１で、住みにくい、どちらかといえば住みにくいと答えたたかにおたずねします。その理由は何ですか。（主なものを３つまで）

問１で「住みにくい」、「どちらかといえば住みにくい」と回答した 314 人に「その理由は何ですか」と質問したところ、複数回答であるが、「交通の便利性がよくない」と答えた方が一番多く 89.2%、次いで「医療・福祉施設が充実していない」、「買い物など日常生活の利便性がよくない」と回答した方が多かった。

前回調査との比較では、大きな変化は見られなかった。

項　　目	2011 調査		2008 調査	前回調査との対比
	実数（人）	構成比	実数（人）	
1　人柄･土地柄がよくない	29	9.2%	23	126.1%
2　自然環境がよくない	11	3.5%	6	183.3%
3　歴史と伝統がない	5	1.6%	0	500.0%
4　交通の便利性がよくない	280	89.2%	243	115.2%
5　働く場がない	52	16.6%	49	106.1%
6　買い物など日常生活の便利性がよくない	107	34.1%	119	89.9%
7　教育･文化･スポーツ施設が充実していない	57	19.2%	34	167.6%
8　医療･福祉施設が充実していない	109	34.7%	110	99.1%
9　道路や公園等の生活基盤が充実していない	31	9.9%	34	91.2%
10　活気とにぎわいがない	68	21.7%	44	154.5%
11　町の発展性がない	79	25.2%	75	105.3%
12　その他（記述式）	14	4.5%	15	93.3%
無回答	0	0.0%	7	14.3%
合計	842(314)	268.2%	759(284)	110.9%

（　）内は回答者数



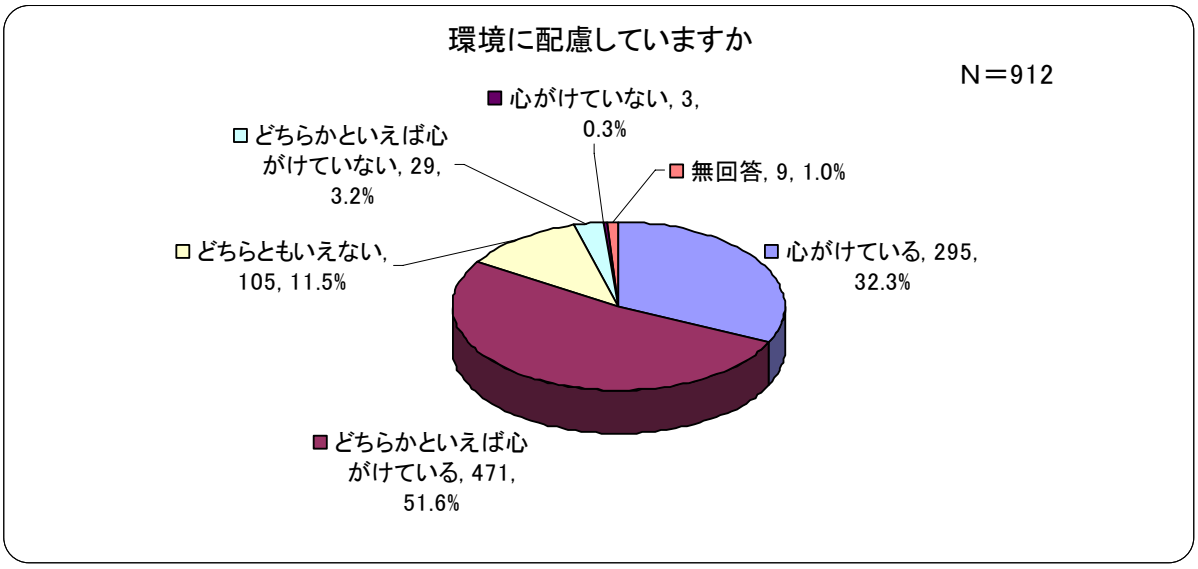
環境問題についておたずねします。

問２　あなたは、環境に配慮した生活を心がけていますか。（答えは１つ）

問２の質問に対しても、「どちらかといえば心がけている」と回答した方が 51.6%と一番多く、次いで「心がけている」と回答した方が 32.3%で、８割以上の回答者が環境に配慮して生活している状況が分かる。「どちらかといえば心がけていない」または、「心がけていない」と回答した方は少数であった。

前回調査との比較では、若干ではあるが環境に配慮する人が増えていることが窺える。

項目実数（人）	2011 調査		2008 調査	前回調査との対比
	実数（人）	構成比	実数（人）	
1　心がけている	295	32.3%	295	100.0%
2　どちらかといえば心がけている	471	51.6%	449	104.9%
3　どちらともいえない	105	11.5%	99	106.1%
4　どちらかといえば心がけていない	29	3.2%	44	65.9%
5　心がけていない	3	0.3%	9	33.3%
無回答	9	1.0%	26	34.6%
合計	912	100.0%	922	98.9%



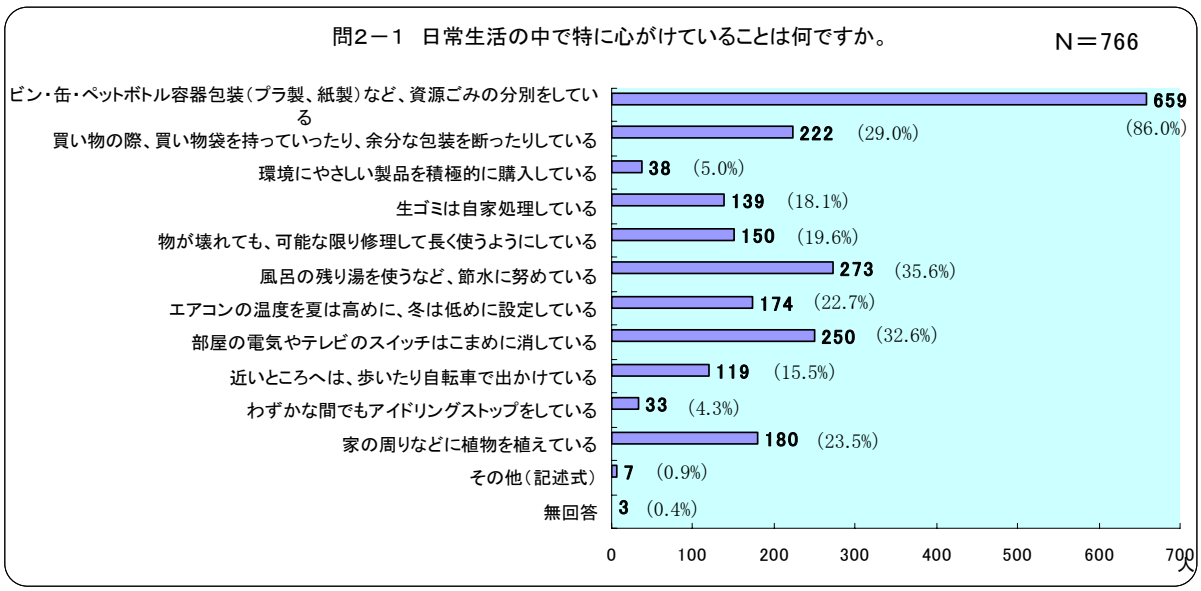
問２－１　問２で、１または２とお答えのかたにおたずねします。日常生活の中で特に心がけていることは何ですか。（主なものを３つまで）

問２で「心がけている」、「どちらかといえば心がけている」と回答した 766 人について、「特に心がけていることは何ですか」と質問したところ、複数回答であるが、前回調査と同様に「ビン・缶・ペットボトルや容器包装など、資源ごみの分別をしている」と答えた者が特に多く 86.0%であった。次いで、高い率で回答があった項目は「風呂の残り湯を使うなど、節水に努めている」、「部屋の電気やテレビのスイッチはこまめに消している」という結果になった。

前回調査との比較では、大きな変化は見られなかった。

項　　目	2011 調査		2008 調査	前回調査との対比
	実数（人）	構成比	実数（人）	
1 ビン･缶･ペットボトルや容器包装（プラ製、紙製）など、資源ごみの分別をしている	659	86.0%	603	109.3%
2 買い物の際、買い物袋を持っていったり、余分な包装を断ったりしている	222	29.0%	193	115.0%
3 環境にやさしい製品を積極的に購入している	38	5.0%	40	95.0%
4 生ゴミは自家処理している	139	18.1%	148	93.9%
5 物が壊れても、可能な限り修理して長く使うようにしている	150	19.6%	106	141.5%
6 風呂の残り湯を使うなど、節水に努めている	273	35.6%	240	113.8%
7 エアコンの温度を夏は高めに、冬は低めに設定している	174	22.7%	163	106.7%
8 部屋の電気やテレビのスイッチはこまめに消している	250	32.6%	232	107.8%
9 近いところへは、歩いたり自転車で出かけている	119	15.5%	115	103.5%
10 わずかな間でもアイドリングストップをしている	33	4.3%	36	91.7%
11 家の周りなどに植物を植えている	180	23.5%	159	113.2%
12 その他（記述式）	7	0.9%	6	135.5%
無回答	3	0.4%	28	10.7%
合計	2247(766)	100.0%	2069(744)	108.6%

（　）内は回答者数



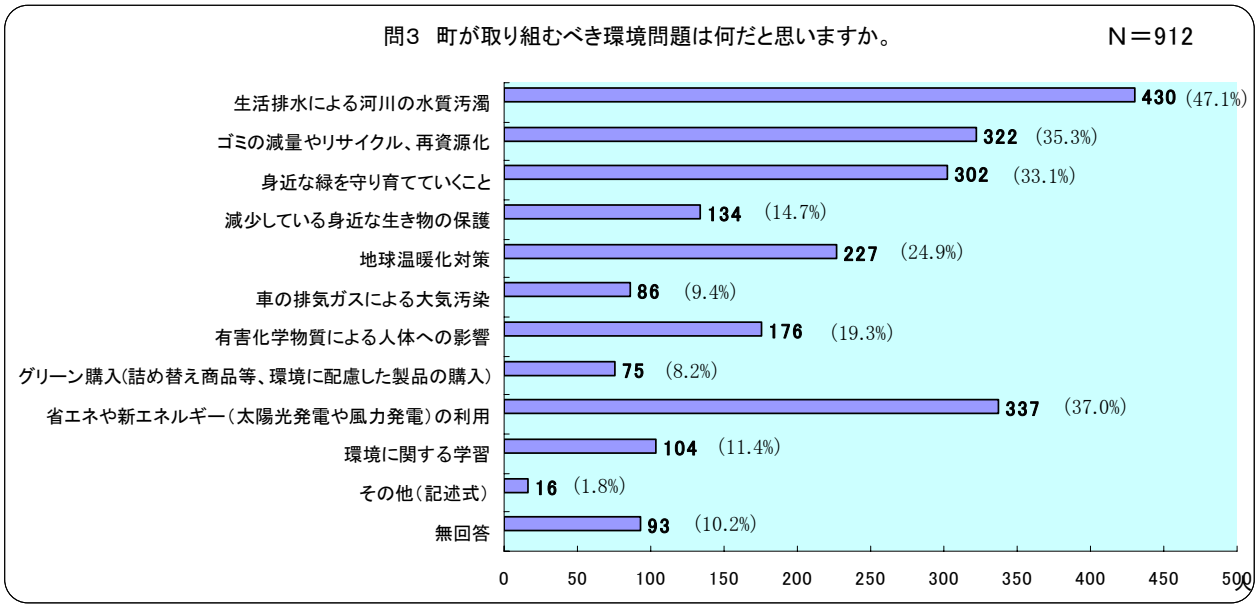
問３　あなたは、今後、町が取り組むべき環境問題は何だと思いますか。（主なものを３つまで）

問３の質問に対しては、複数回答であるが、過半数の回答者が「生活排水による河川の水質汚濁」と回答しており、次いで、「省エネや新エネルギー（太陽光発電や風力発電）の利用」、「ゴミの減量やリサイクル、再資源化」、「身近な緑を守り育てていくこと」を挙げる回答者が多かった。

前回調査との比較では、福島の原子力発電の事故の影響と思われるが、「省エネや新エネルギー（太陽光発電や風力発電）の利用」が大事になると考えている人が増えている。また、「減少している身近な生き物の保護」についても大幅な増加があった。

項　　目	2011 調査		2008 調査	前回調査との比較
	実数（人）	構成比	実数（人）	
1　生活排水による河川の水質汚濁	430	47.1%	471	91.3%
2　ゴミの減量やリサイクル、再資源化	322	35.3%	374	86.1%
3　身近な緑を守り育てていくこと	302	33.1%	295	102.4%
4　減少している身近な生き物の保護	134	14.7%	89	150.6%
5　地球温暖化対策	227	24.9%	320	70.9%
6　車の排気ガスによる大気汚染	86	9.4%	100	86.0%
7　有害化学物質による人体への影響	176	19.3%	143	123.1%
8　グリーン購入(詰め替え商品等、環境に配慮した製品の購入)	75	9.2%	72	104.2%
10　省エネや新エネルギー(太陽光発電や風力発電)の利用	337	37.0%	239	141.0%
11　環境に関する学習	104	11.4%	126	82.5%
12　その他(記述式)	16	1.9%	24	66.7%
無回答	93	10.2%	108	86.1%
合計	2302(912)	252.4%	2361(922)	97.5%

（　）内は回答者数



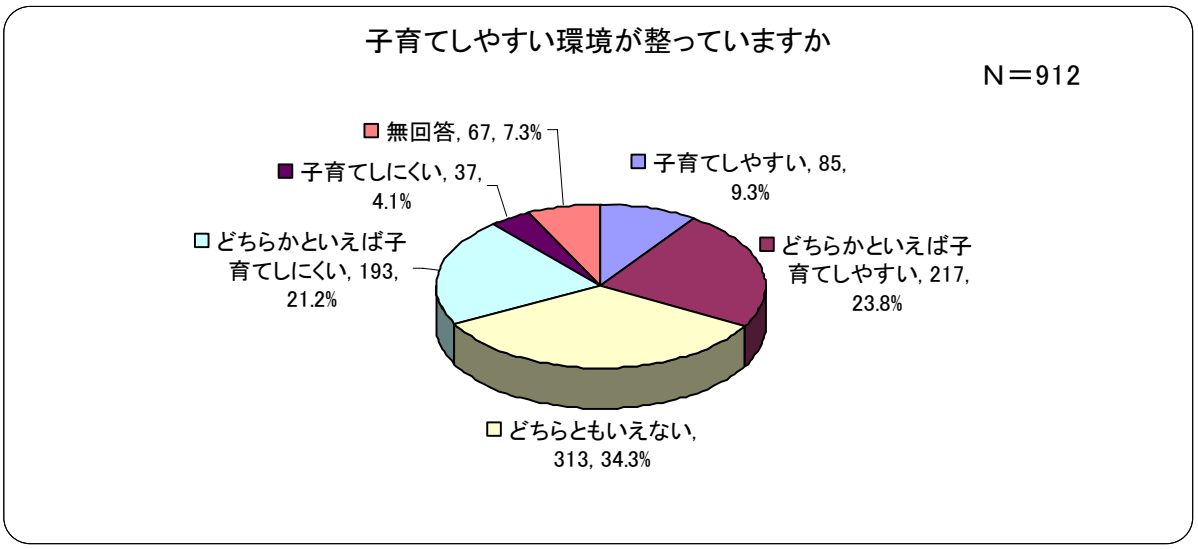
保健・福祉についておたずねします。

問４　あなたは、川島町は子育てしやすい環境が整ったまちだと思いますか。（答えは１つ）

問４の質問に対しては、「どちらかといえば子育てしやすい」と回答する方と「どちらかといえば子育てしにくい」と回答する方が拮抗しており、回答者の判断が分かれる結果となった。なお、「どちらともいえない」と回答した方が 34.3%と一番多かった。

また、前回調査と比較すると、若干ではあるものの「子育てしやすい」、「どちらかといえば子育てしやすい」と回答した方が増えている。

項目	2011 調査		2008 調査	前回調査との対比
	実数（人）	構成比	実数（人）	
1　子育てしやすい	85	9.3%	75	113.3%
2　どちらかといえば子育てしやすい	217	23.8%	188	115.4%
3　どちらともいえない	313	34.3%	340	92.1%
4　どちらかといえば子育てしにくい	193	21.2%	182	106.0%
5　子育てしにくい	37	4.1%	50	74.0%
無回答	67	7.3%	87	77.0%
合計	912	100.0%	922	98.9%



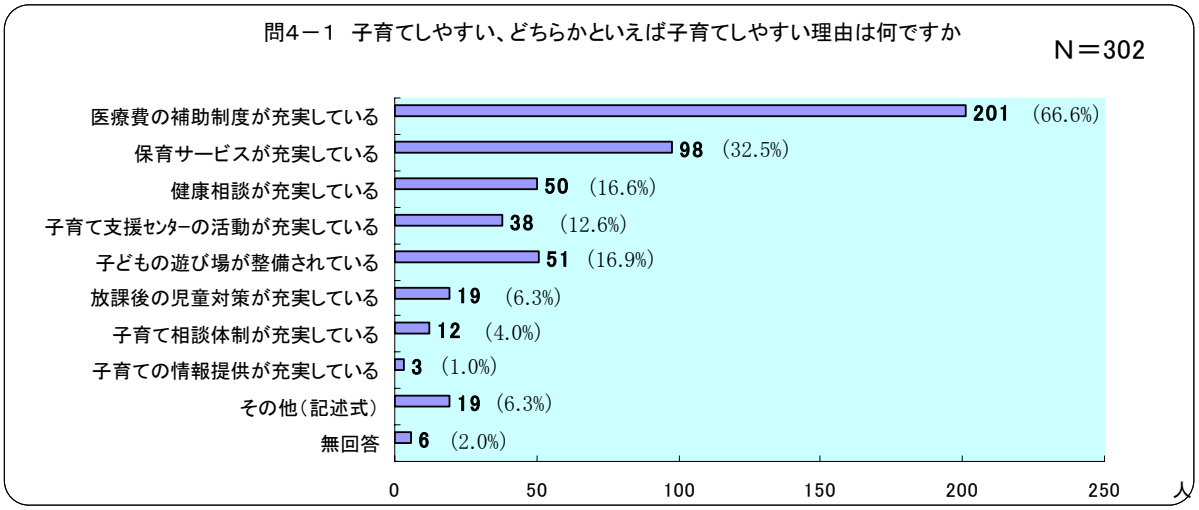
問 4-1　問４で子育てしやすい、どちらかといえば子育てしやすいとお答えのかたにおたずねします。その理由は何ですか。（主なものを２つまで）

問４で「子育てしやすい」、「どちらかといえば子育てしやすい」と回答した 302 人にその理由を質問したところ、複数回答であるが、「医療費の補助制度が充実している」と 66.6%の方が回答しており、補助制度が評価されている結果となった。次いで「保育サービスが充実している」ことを挙げ、「子どもの遊び場が充実していると」、「健康相談が充実している」と回答した方がそれぞれ 16%ほどであった。

前回調査との比較では、医療費の充実が評価されている。

項目	2011 調査		2008 調査	前回調査との対比
	実数（人）	構成比	実数（人）	
1　医療費の補助制度が充実している	201	66.6%	131	153.4%
2　保育サービスが充実している	98	32.5%	77	127.3%
3　健康相談が充実している	50	16.6%	43	116.3%
4　子育て支援ｾﾝﾀｰの活動が充実している	38	12.6%	25	152.0%
5　子どもの遊び場が整備されている	51	16.9%	61	83.6%
6　放課後の児童対策が充実している	19	6.3%	25	76.0%
7　子育て相談体制が充実している	12	4.0%	15	80.0%
8　子育ての情報提供が充実している	3	1.0%	5	60.0%
9　その他（記述式）	19	6.3%	19	100.0%
無回答	6	2.0%	22	27.3%
合計	497(302)	164.6%	423(263)	117.5%

（　）内は回答者数



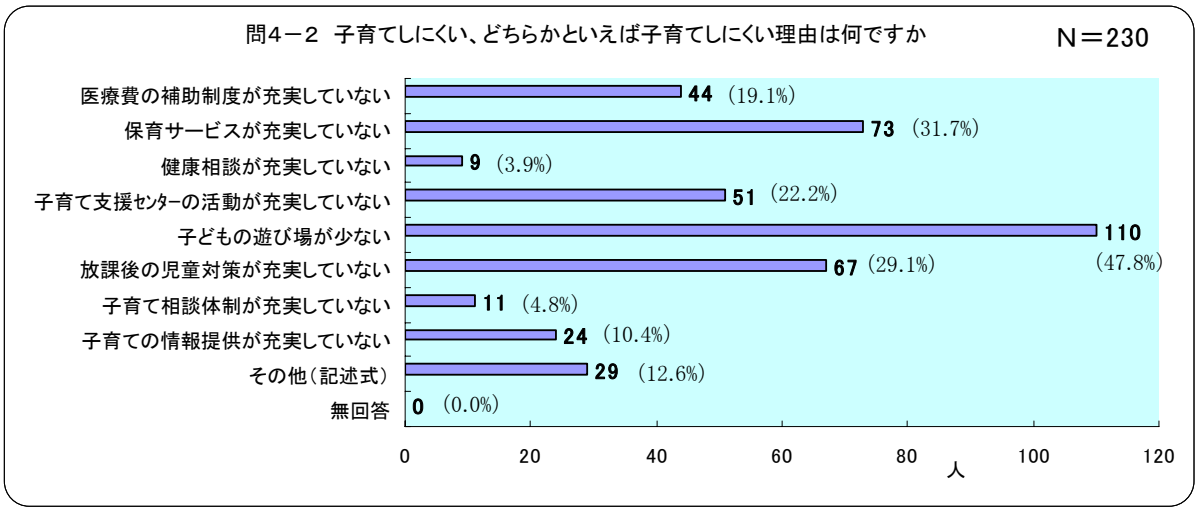
問 4-2　問４で子育てしにくい、どちらかといえば子育てしにくいとお答えのかたにおたずねします。その理由は何ですか。（主なものを２つまで）

問４で「子育てしにくい」、「どちらかといえば子育てにくい」と回答した 230 人にその理由を質問したところ、複数回答であるが、「子どもの遊び場が少ない」と回答した方が 47.8%であった。次いで、「放課後の児童対策が充実していない」と回答する方や「保育サービスが充実していない」と回答した方が比較的多かった。

前回調査との比較では、大きな変動は見られなかった。

項　　目	2011 調査		2008 調査	前回調査との対比
	実数（人）	構成比	実数（人）	
1　医療費の補助制度が充実していない	44	19.1%	35	125.7%
2　保育サービスが充実していない	73	31.7%	59	123.7%
3　健康相談が充実していない	9	3.9%	14	64.3%
4　子育て支援ｾﾝﾀｰの活動が充実していない	51	22.2%	39	130.8%
5　子どもの遊び場が少ない	110	47.8%	91	120.9%
6　放課後の児童対策が充実していない	67	29.1%	66	101.5%
7　子育て相談体制が充実していない	11	4.8%	12	91.6%
8　子育ての情報提供が充実していない	24	10.4%	18	133.3%
9　その他（記述式）	29	12.6%	20	96.7%
無回答	0	0.0%	30	0.0%
合計	418(230)	181.7%	384(232)	108.9%

（　）内は回答者数

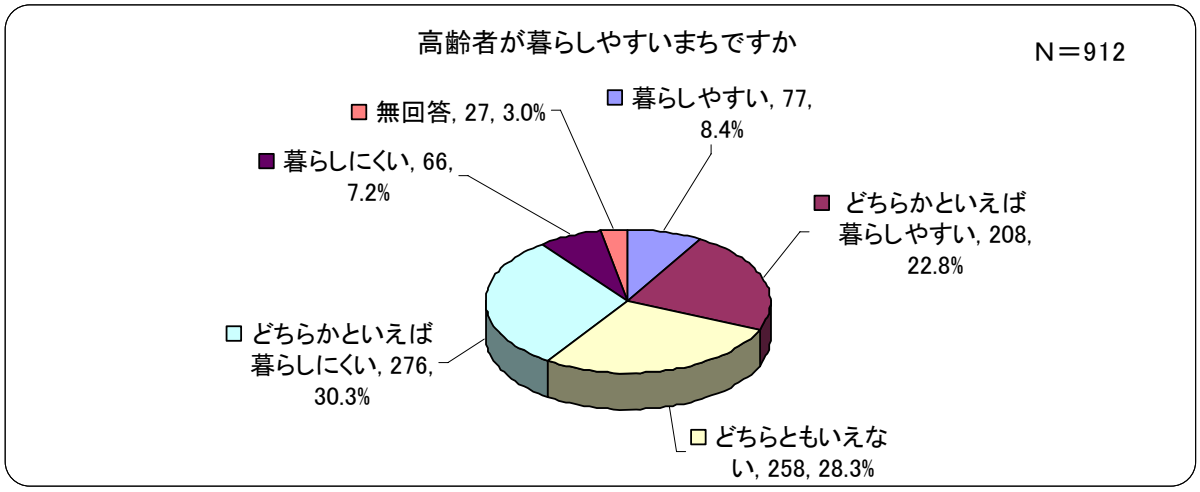


問５　あなたは、川島町は高齢者が暮らしやすい環境が整ったまちだと思いますか。（答えは１つ）

問５の質問に対しては、「どちらかといえば暮らしにくい」と回答した方が 30.3%と多く、「暮らしにくい」と回答した方を合せると 37.5%となり、「暮らしやすい」または「どちらかといえば暮らしやすい」と回答した方の合計 31.2%を上回る結果となった。なお、「どちらともいえない」と回答した方が 28.3%となっている。

前回調査との比較では、「暮らしやすい」、「どちらかといえば暮らしやすい」と回答した割合の変化は無く、「どちらともいえない」と回答した割合が約 2%減少した分、「どちらかといえば暮らしにくい」、「暮らしにくい」と回答したがその分増加している。

項　　目	2011 調査		2008 調査	前回調査との対比
	実数（人）	構成比	実数（人）	
1　暮らしやすい	77	8.4%	78	98.7%
2　どちらかといえば暮らしやすい	208	22.8%	191	108.9%
3　どちらともいえない	258	28.3%	311	83.0%
4　どちらかといえば暮らしにくい	276	30.3%	234	117.9%
5　暮らしにくい	66	7.2%	74	89.2%
無回答	27	3.0%	34	79.4%
合計	912	100.0%	922	98.9%



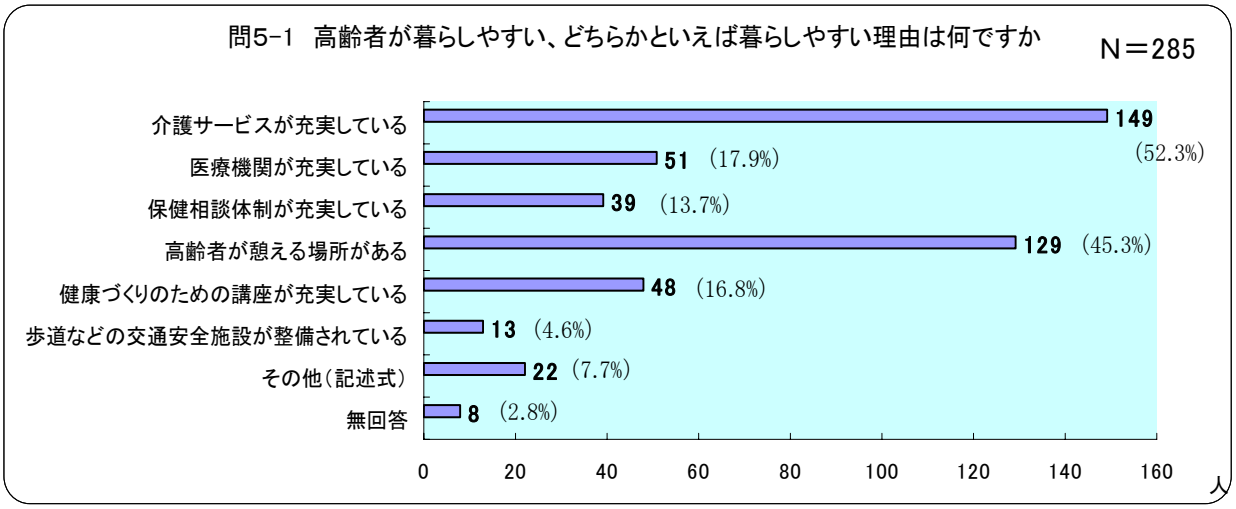
問 5-1　問５で、暮らしやすい、どちらかといえば暮らしやすいとお答えのかたにおたずねします。その理由は何ですか。（主なものを２つまで）

問５で「暮らしやすい」、「どちらかといえば暮らしやすい」と回答した 285 人にその理由を質問したところ、複数回答であるが、「介護サービスが充実している」と 52.3%の方が回答しており、次いで、「高齢者が憩える場所がある」と回答した方が 45.3%と多かった。また、「医療機関が充実している」、「健康づくりのための講座が充実している」と回答する方も比較的多かった。

前回調査との比較では、大きな変動は見られなかった。

項　　目	2011 調査		2008 調査	前回調査との対比
	実数（人）	構成比	実数（人）	
1　介護サービスが充実している	149	52.3%	113	131.9%
2　医療機関が充実している	51	17.9%	38	134.2%
3　保健相談体制が充実している	39	13.7%	39	100.0%
4　高齢者が憩える場所がある	129	45.3%	145	89.0%
5　健康づくりのための講座が充実している	48	16.8%	35	137.1%
6　歩道などの交通安全施設が整備されている	13	4.6%	23	56.5%
7　その他（記述式）	22	7.7%	17	129.4%
無回答	8	2.8%	13	61.5%
合計	459(285)	161.1%	423(269)	108.5%

（　）内は回答者数



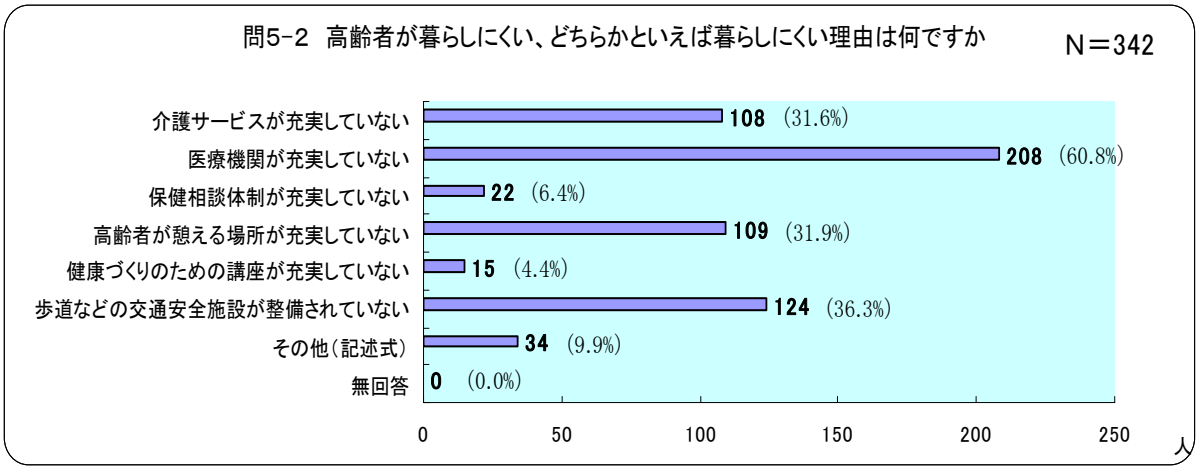
問５－２　問５で、暮らしにくい、どちらかといえば暮らしにくいとお答えのかたにおたずねします。その理由は何ですか。（主なものを２つまで）

問５で「暮らしにくい」、「どちらかといえば暮らしにくい」と回答した 342 人にその理由を質問したところ、複数回答であるが、「医療機関が充実していない」と 33.5%の方が回答し、次いで、「歩道などの交通安全施設が整備されていない」と回答した方が多く 20.0%であった。また、「高齢者が憩える場所が充実していない」と 17.6%の方が回答しており、前問と異なる回答となった。

前回調査との比較では、数字的には大きくないものの、「介護サービスが充実していない」という項目が、割合的には約２倍の数値となっている。

項　　目	2011 調査		2008 調査	前回調査との対比
	実数（人）	構成比	実数（人）	
1　介護サービスが充実していない	108	31.6%	56	192.9%
2　医療機関が充実していない	208	60.8%	184	113.0%
3　保健相談体制が充実していない	22	6.4%	22	100.0%
4　高齢者が憩える場所が充実していない	109	31.9%	100	109.0%
5　健康づくりのための講座が充実していない	15	4.4%	11	136.4%
6　歩道などの交通安全施設が整備されていない	124	36.3%	134	92.5%
7　その他（記述式）	34	9.9%	36	94.4%
無回答	0	0.0%	14	7.1%
合計	620(342)	181.3%	557(308)	111.3%

（　）内は回答者数



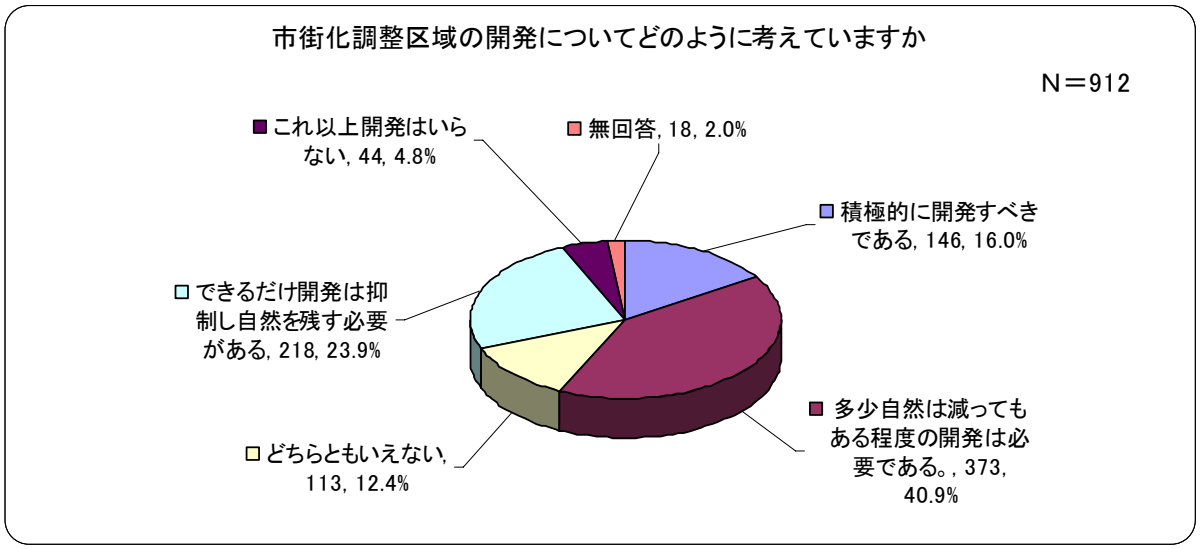
土地利用についておたずねします。

問６　町内の市街化調整区域は、原則的に開発を抑制し、宅地化できない区域となっています。あなたは、この区域の開発について、どのようにお考えですか。（答えは１つ）

問６の質問に対しては、「多少自然は減ってもある程度の開発は必要である」と回答した方が 40.9%と一番多く、「積極的に開発すべきである」と答えた 16.0%の回答者を合計すると 56.9%と過半数を上回る結果となった。しかしながら、「できるだけ開発は抑制し自然を残す必要がある」と回答した方も多く 23.9%であった。

前回調査との比較では、今回の調査では「積極的に開発すべきである」、「多少自然は減ってもある程度の開発は必要である」と回答した方が 5.7%増加した反面、「できるだけ開発は抑制し自然を残す必要がある」、「これ以上開発はいらない」と回答した方が 4.3%減少している。若干ではあるが、開発志向の傾向があると思われる。

項　　目	2011 調査		2008 調査	前回調査との対比
	実数（人）	構成比	実数（人）	
1　積極的に開発すべきである	146	16.0%	132	110.6%
2　多少自然は減ってもある程度の開発は必要である	373	40.9%	340	109.7%
3　どちらともいえない	113	12.4%	110	102.7%
4　できるだけ開発は抑制し自然を残す必要がある	218	23.9%	243	89.7%
5　これ以上開発はいらない	44	4.8%	61	72.1%
無回答	18	2.0%	36	50.0%
合計	912	100.0%	922	98.9%



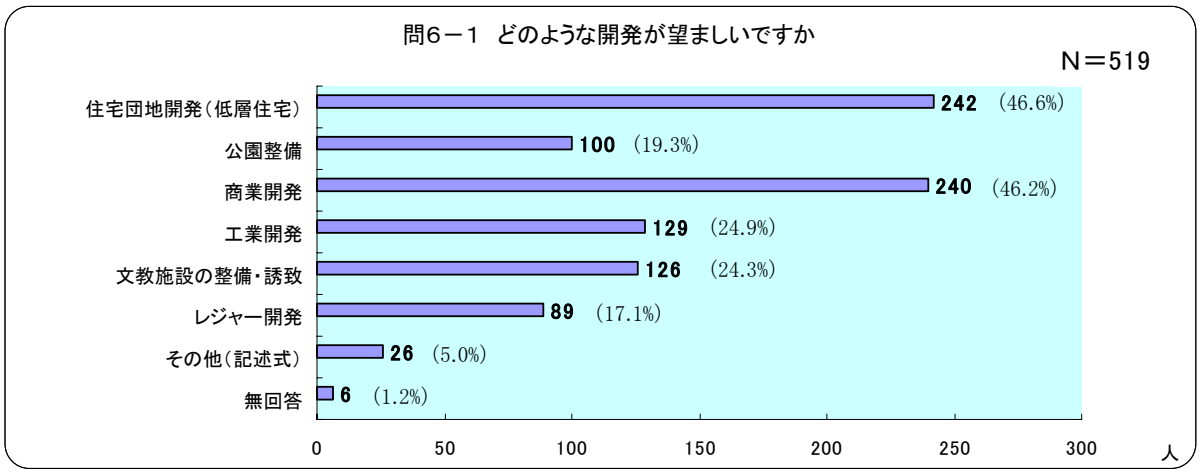
問６－１　どのような開発が望ましいですか。（主なものを２つまで）

問６で「積極的に開発すべきである」、「多少自然は減ってもある程度の開発は必要である」と回答した 519 人に「どのような開発が望ましいですか」と質問したところ、複数回答であるが、「住宅団地の開発」と回答する方が一番多く 46.6%で、次いで「商業開発」と回答する方が 46.2%であった。

前回調査との比較では、「住宅団地開発（低層住宅）」、「文教施設の整備・誘致」が増加する結果となった。

項　　目	2011 調査		2008 調査	前回調査との対比
	実数（人）	構成比	実数（人）	
1　住宅団地開発（低層住宅）	242	46.6%	184	131.5%
2　公園整備	100	19.3%	104	96.2%
3　商業開発	240	46.2%	214	112.1%
4　工業開発	129	24.9%	133	97.0%
5　文教施設の整備･誘致	126	24.3%	101	124.8%
6　レジャー開発	89	17.1%	90	98.9%
7　その他（記述式）	26	5.0%	12	216.7%
無回答	6	1.2%	16	37.5%
合計	958(519)	184.6%	854(472)	112.2%

（　）内は回答者数



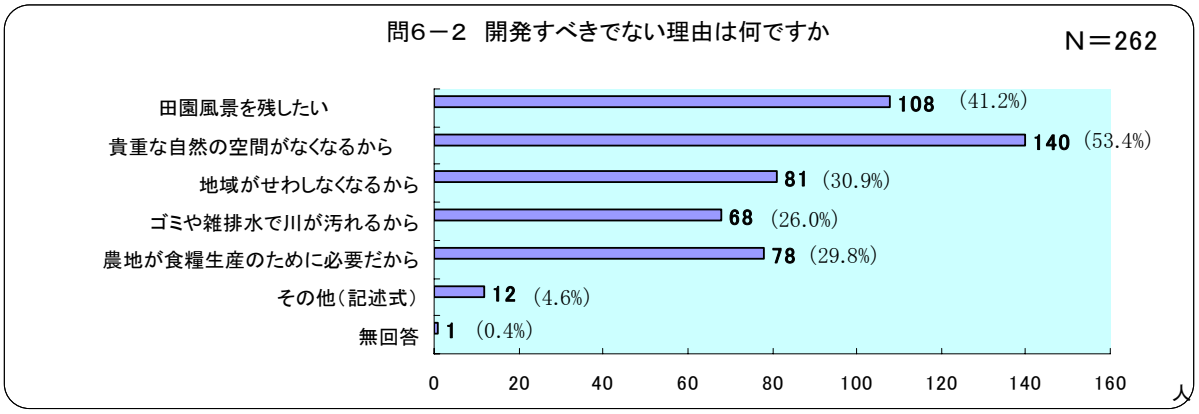
問６－２　開発すべきでない理由は何ですか。（主なものを２つまで）

問６で「これ以上開発はいらない」、「できるだけ開発は抑制し自然を残す必要がある」と回答した 262 人にその理由を質問したところ、複数回答であるが、「貴重な自然の空間が失われるから」と回答した方が一番多く 53.4%で、次いで、41.2%の方が「田園風景を残したい」と回答し、「地域ののどかさが失われる」、「農地が食糧生産のため必要である」と回答した方も 15%を越えるなど比較的多かった。

前回調査との比較では、大きな変動は見られなかった。

項　　目	2011 調査		2008 調査	前回調査との対比
	実数（人）	構成比	実数（人）	
1　田園風景を残したいから	108	41.2%	120	90.0%
2　貴重な自然の空間が失われるから	140	53.4%	131	106.9%
3　地域ののどかさが失われるから	81	30.9%	88	92.0%
4　ゴミや雑排水で川が汚れるから	68	26.0%	75	90.7%
5　農地が食糧生産のために必要だから	78	29.8%	129	60.5%
6　その他（記述式）	12	4.6%	6	200.0%
無回答	1	0.4%	8	12.5%
合計	488(262)	186.3%	557(304)	84.6%

（　）内は回答者数



農業についておたずねします。

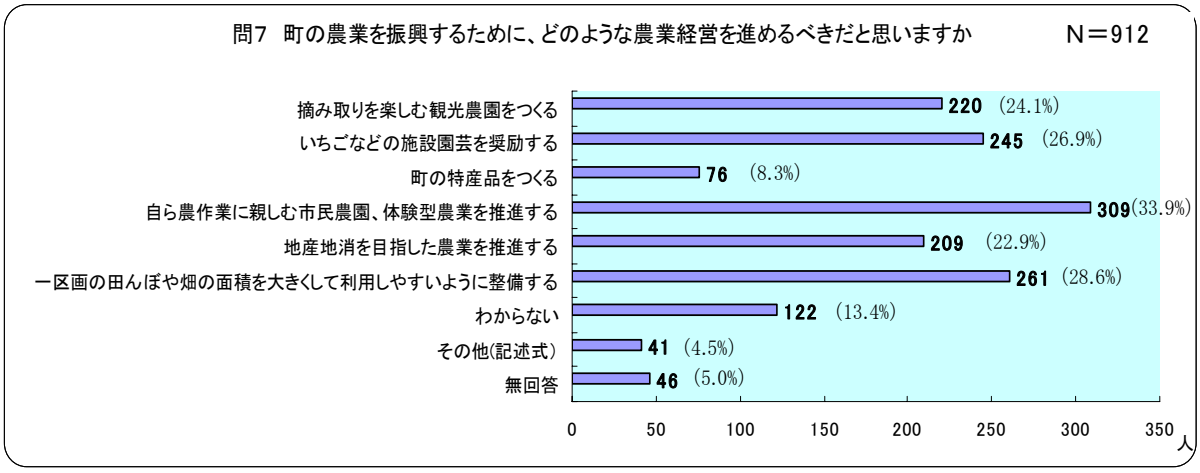
問７　あなたは、町の農業を振興するために、どのような農業経営を進めるべきだと思いますか。（主なものを２つまで）

問７の質問に対しては、20.2%の者が「自ら農作業に親しむ市民農園、体験型農業を推進する」と回答しており、次いで「一区画の田んぼや畑の面積を大きくして利用しやすいように整備する」が 17.1%と多く、さらに、「いちごなどの施設園芸を奨励する」ことや「摘み取りを楽しむ観光農園をつくる」、「地産地消を目指した農業の推進」と回答するものが 15%前後の回答率となった。

前回調査との比較では、「町の特産品をつくる」が、前回調査の回答の中で最も多い意見であったが、今回は大きく数字を下げている。その反面、「自ら農作業に親しむ市民農園、体験型農業を推進する」、「いちごなどの施設園芸を奨励する」が大きく数値を伸ばした。その要因としては、生業としての農業でなく市民農園等の体験型農業を望む声が多くなっていることが考えられる。

項　　目	2011 調査		2008 調査	前回調査との対比
	実数（人）	構成比	実数（人）	
1　摘み取りを楽しむ観光農園をつくる	220	14.4%	247	89.1%
2　いちごなどの施設園芸を奨励する	245	16.0%	75	326.7%
3　町の特産品をつくる	76	5.0%	417	18.2%
4　自ら農作業に親しむ市民農園、体験型農業を推進する	309	20.2%	214	144.4%
5　地産地消を目指した農業を推進する	209	13.7%	207	101.0%
6　一区画の田んぼや畑の面積を大きくして利用しやすいように整備する	261	17.1%	157	166.2%
7　わからない	122	8.0%	147	83.0%
8　その他(記述式)	41	2.7%	25	164.0%
無回答	46	3.0%	49	93.9%
合計	1529(912)	100.0%	1538(922)	99.4%

（　）内は回答者数

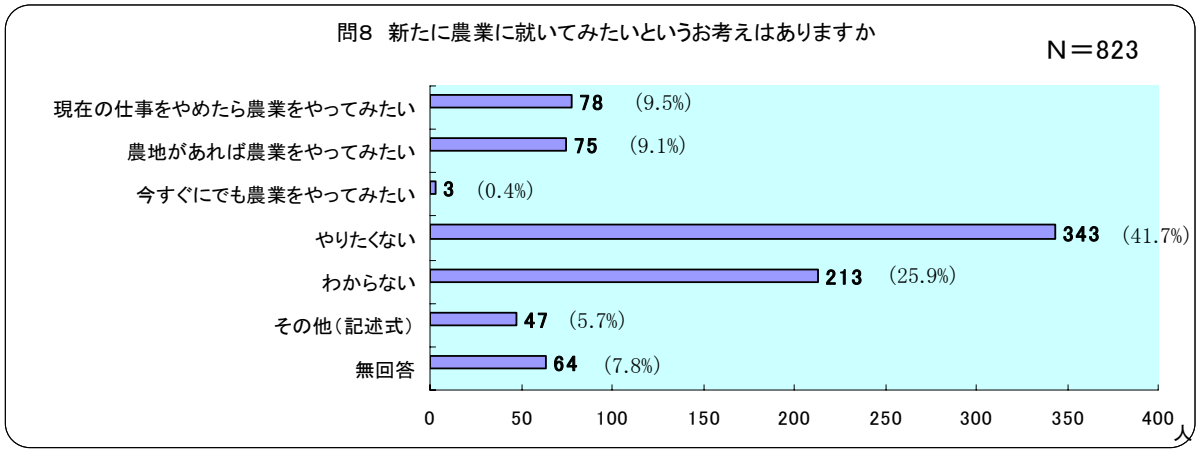


問８　あなたは、新たに農業に就いてみたいというお考えはありますか。（答えは１つ）

問８の質問に対しては、農業以外の職業に従事する 823 人が回答しているが、4 割を超える方が「やりたくない」と回答しているものの、「現在の仕事をやめたら農業をやってみたい」、「農地があれば農業をやってみたい」と回答した方も多く、少数ではあるが「今すぐにでも農業をやってみたい」と回答した方を合わせると、回答者の 19.0%が農業をやってみたいという結果となった。

前回調査との比較では、「現在の仕事をやめたら農業をやってみたい」と回答した方が 4%ほど数字を下げており、その反面で「やりたくない」と回答した方が 2%ほど数字を伸ばしている。

項　　目	2011 調査		2008 調査	前回調査との対比
	実数（人）	構成比	実数（人）	
1　現在の仕事をやめたら農業をやってみたい	78	9.5%	109	71.6%
2　農地があれば農業をやってみたい	75	9.1%	74	101.4%
3　今すぐにでも農業をやってみたい	3	0.4%	6	50.0%
4　やりたくない	343	41.7%	321	106.9%
5　わからない	213	25.9%	181	117.7%
6　その他（記述式）	47	5.7%	58	81.0%
無回答	64	7.8%	70	91.4%
合計	823	100.0%	819	100.5%



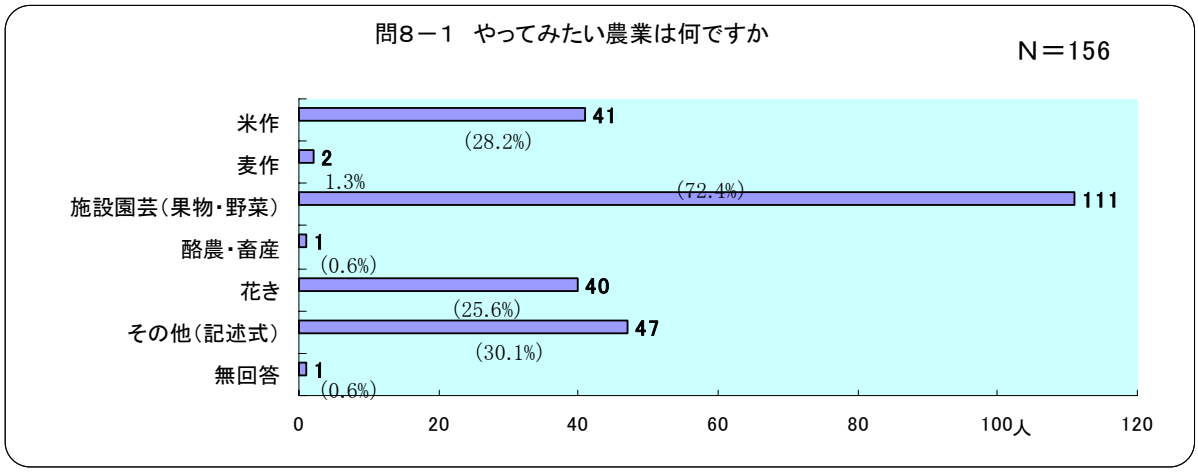
問８－１　やってみたい農業は何ですか。（主なものを２つまで）

問８で「農業をやってみたい」と回答した 156 人に「やってみたい農業は何ですか」と質問したところ、「施設園芸」と回答した方が 72.4%と圧倒的に多かった。また、「米作」をやってみたいと回答した方が 28.2%、「花き」と回答した者も 25.6%と比較的多い結果となった。

前回調査との比較では、その他（記述式）の回答が増えており、その中では「市民農園」と回答する方が多かった。

項　　目	実数（人）		2008 調査	前回調査との対比
	実数（人）	構成比	実数（人）	
1　米作	44	17.7%	69	63.8%
2　麦作	3	1.2%	15	20.0%
3　施設園芸（果物・野菜）	113	45.4%	156	72.4%
4　酪農・畜産	1	0.4%	7	14.9%
5　花き	40	16.1%	52	76.9%
6　その他（記述式）	47	18.9%	4	1175.0%
無回答	1	0.4%	0	100.0%
合計	249（156）	100.0%	303（189）	82.2%

（　）内は回答者数



生涯学習についておたずねします。

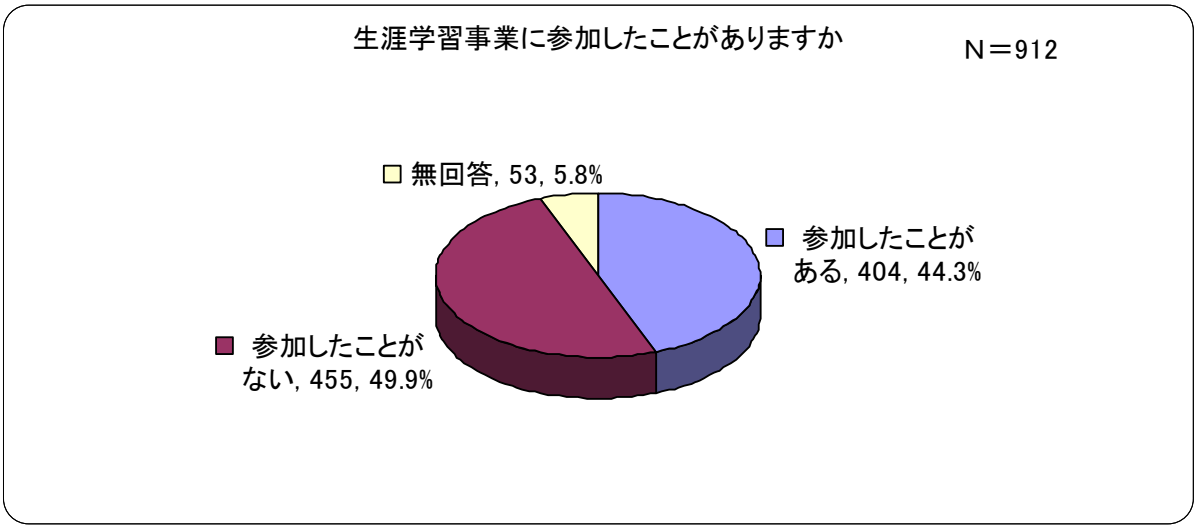
問９　町では、昭和 52 年に「スポーツ都市宣言」、平成４年に「生涯学習推進のまち宣言」をし、その振興を図ってきました。あなたは、今まで町内で実施している生涯学習事業や生涯スポーツ事業に参加したことがありますか。（答えは１つ）

ア　生涯学習事業

問９の「生涯学習事業に参加したことがありますか」との質問に対しては、44.3%が「参加したことがある」と回答しているが、「参加したことがない」と回答した方が若干上回る結果となった。

前回調査との比較では、若干（約 2.0%）ではあるが、参加したことがあると回答した方が増えている。

項　　目	2011 調査		2008 調査	前回調査との対比
	実数（人）	構成比	実数（人）	
1　参加したことがある	404	44.3%	387	104.4%
2　参加したことがない	455	49.9%	448	101.8%
無回答	53	5.8%	87	60.9%
合計	912	100.0%	922	98.9%

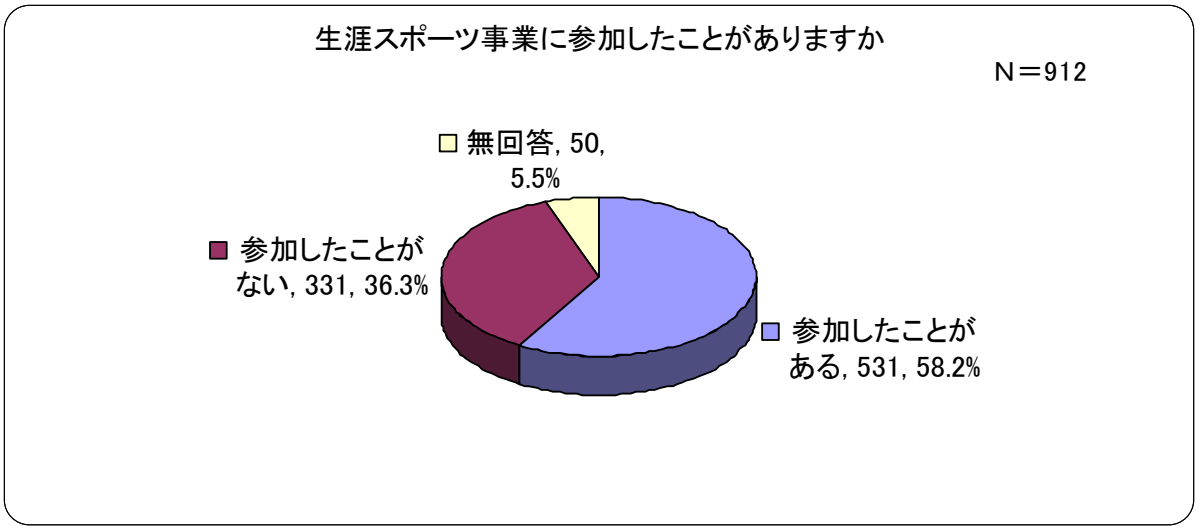


イ　生涯スポーツ事業

問９の「生涯スポーツ事業に参加したことがありますか」との質問に対しては、回答者の過半数を超える 58.2%の方が「参加したことがある」と回答しており、「参加したことがない」と回答した 36.3%と比較すると約 22 ポイント上回り、多くの町民が生涯スポーツ事業に参加している結果となった。

前回調査との比較では、約 8 ポイント増える形で推移していることを踏まえると、町民のスポーツに関する関心が大きくなっていることがわかる。これは、近年の「健康志向」を前提とした結果と言える。

項　　目	2011 調査		2008 調査	前回調査との対比
	実数（人）	構成比	実数（人）	
1　参加したことがある	531	58.2%	486	109.3%
2　参加したことがない	331	36.3%	359	92.2%
無回答	50	5.5%	77	64.9%
合計	912	100.0%	922	98.9%



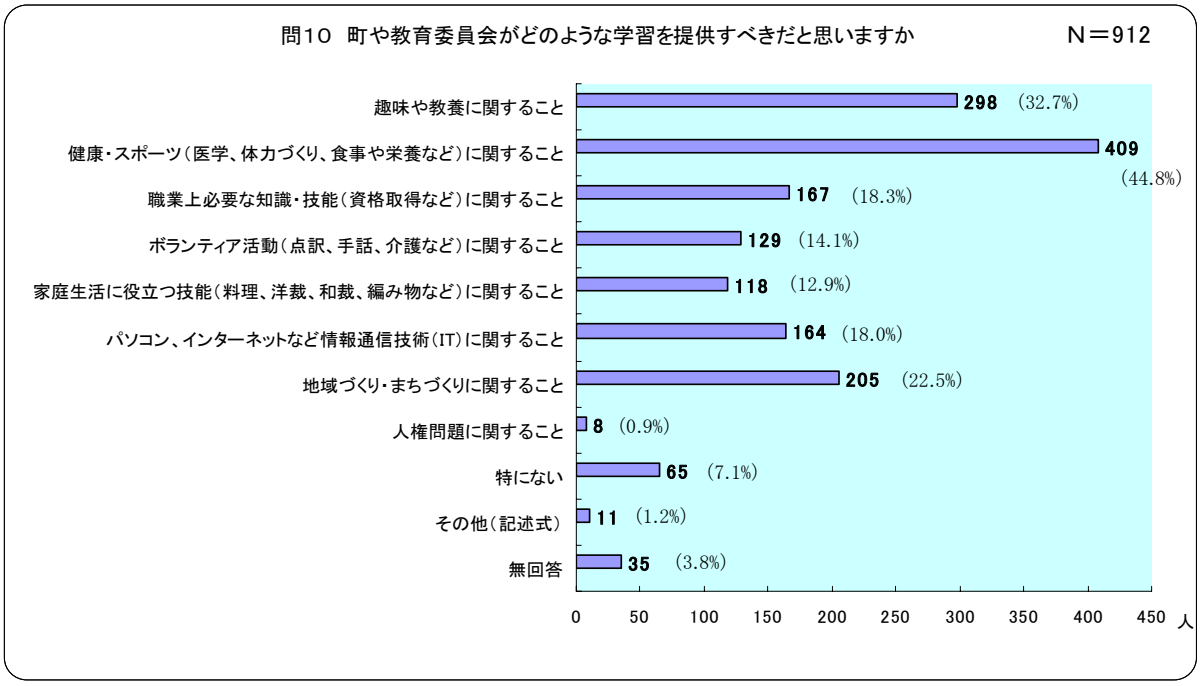
問 10　町民の生涯学習を支援するため、あなたは、町や教育委員会が、どのような学習を提供すべきだと思いますか。（主なものを２つまで）

問 10 の質問に対しては、44.8%の方が「健康、スポーツに関すること」と回答しており、次いで「趣味や教養に関すること」を挙げた回答者が多く 32.7%であった。また、新たな学習課題として、「地域づくり・まちづくりに関すること」を挙げる方も多く 22.5%の回答となった。

前回調査との比較では、大きな変化は見られなかった。

項　　目	2011 調査		2008 調査	前回調査との対比
	実数（人）	構成比	実数（人）	
1　趣味や教養に関すること	298	32.7%	316	94.3%
2　健康・スポーツ（医学、体力づくり、食事や栄養など）に関すること	409	44.8%	396	103.3%
3　職業上必要な知識・技能（資格取得など）に関すること	167	18.3%	164	101.8%
4　ボランティア活動（点訳、手話、介護など）に関すること	129	14.1%	142	90.8%
5　家庭生活に役立つ技能（料理、洋裁、和裁、編み物など）に関すること	118	12.9%	118	100.0%
6　パソコン、インターネットなど情報通信技術（IT）に関すること	164	18.0%	158	103.8%
7　地域づくり・まちづくりに関すること	205	22.5%	201	102.0%
8　人権問題に関すること	8	0.9%	22	36.4%
9　特にない	65	7.1%	71	91.5%
10　その他（記述式）	11	1.2%	14	78.6%
無回答	35	3.8%	45	77.8%
合計	1609(912)	176.4%	1647(922)	97.7%

（　）内は回答者数



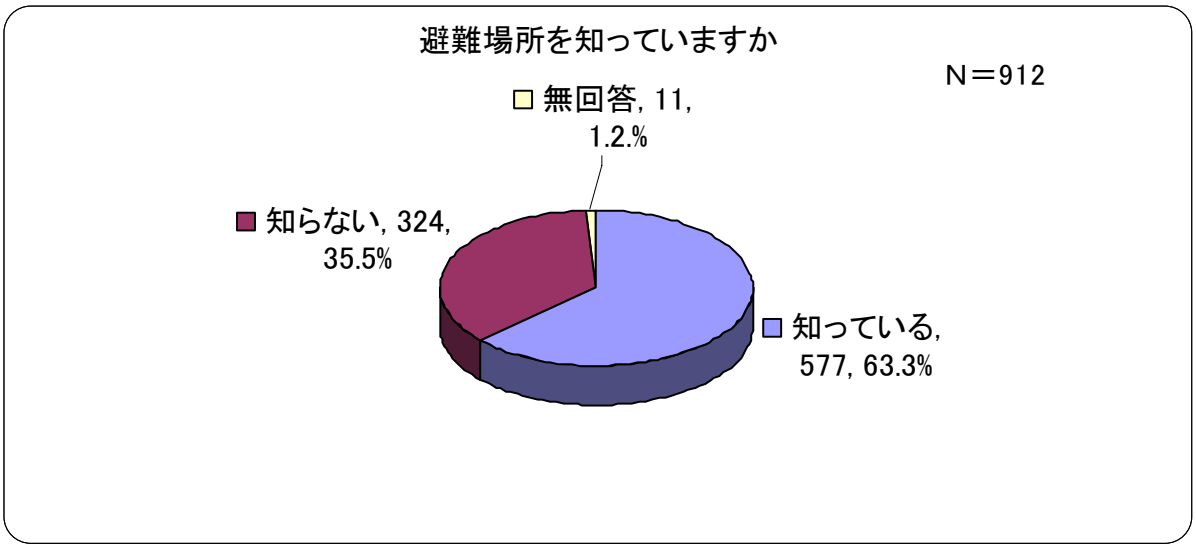
安全・安心なまちづくりについておたずねします。

問 11　町では町内に 10 か所、災害時の避難所を設けていますが、あなたは、災害が起きたとき、自分が居住する地域の避難所を知っていますか。（答えは１つ）

問 11 の質問に対しては、約６割の回答者が「知っている」と回答しているが、35.5%の回答者は「知らない」と回答しており、さらに周知を図る必要がある結果となった。

前回調査との比較では、若干ではあるが「知っている」と回答した方が増えたものの、大きな変化が見られなかった。今後、さらなる周知の徹底が求められるところである。

項　　目	2011 調査		2008 調査	前回調査との対比
	実数（人）	構成比	実数（人）	
1　知っている	577	63.3%	558	103.4%
2　知らない	324	35.5%	334	97.0%
無回答	11	1.2%	30	36.7%
合計	912	100.0%	922	98.9%

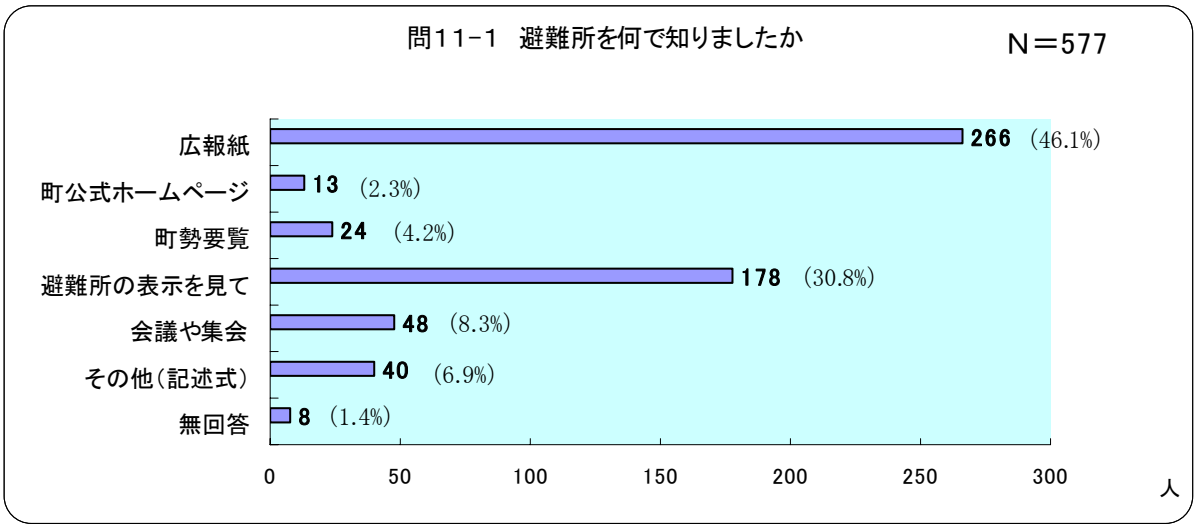


問 11ー1　避難所を何で知りましたか。（答えは１つ）

問 11 で「知っている」と回答した 577 人に「避難所を何で知りましたか」と質問したところ、「広報紙」と回答した方が一番多く 46.1%であった。また、「避難所の表示を見て」と回答した方が 30.8%となり、回答が集中する結果となった。

前回調査との比較では、大きな変化は見られなかった。

項　　目	2011 調査		2008 調査	前回調査との対比
	実数（人）	構成比	実数（人）	
1　広報紙	266	46.1%	231	115.2%
2　町公式ホームページ	13	2.3%	9	144.4%
3　町勢要覧	24	4.2%	21	114.3%
4　避難所の表示を見て	178	30.8%	214	83.2%
5　会議や集会	48	8.3%	37	129.7%
6　その他（記述式）	40	6.9%	33	121.2%
無回答	8	1.4%	13	61.5%
合計	577	100.0%	558	103.4%

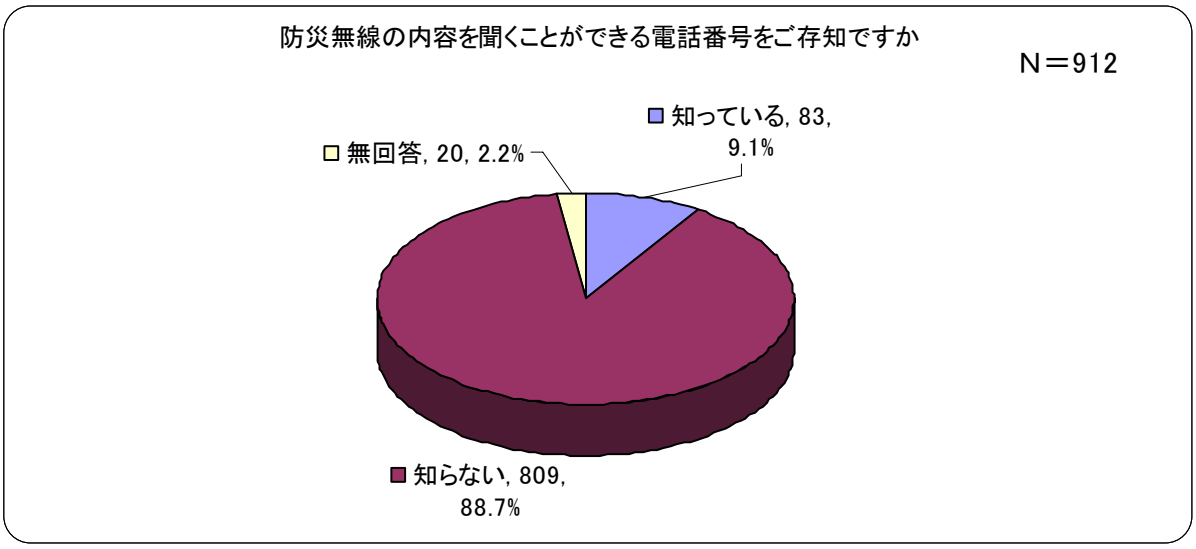


問 12　町には、防災行政無線による放送の内容が、無料の電話で聞けるサービスがありますが、その電話番号を知っていますか。

問 12 の質問に対しては、「知っている」と回答した方が全体の 1 割にも満たないという結果となった。反対に、「知らない」と回答した方は全体の 9 割程度に達している。

項　　目	2011 調査	
	実数（人）	構成比
1　知っている	83	9.1%
2　知らない	809	88.7%
3　無回答	20	2.2.%
合計	912	100.0%

※今回の調査から始めたものであるため、比較は行っていない。

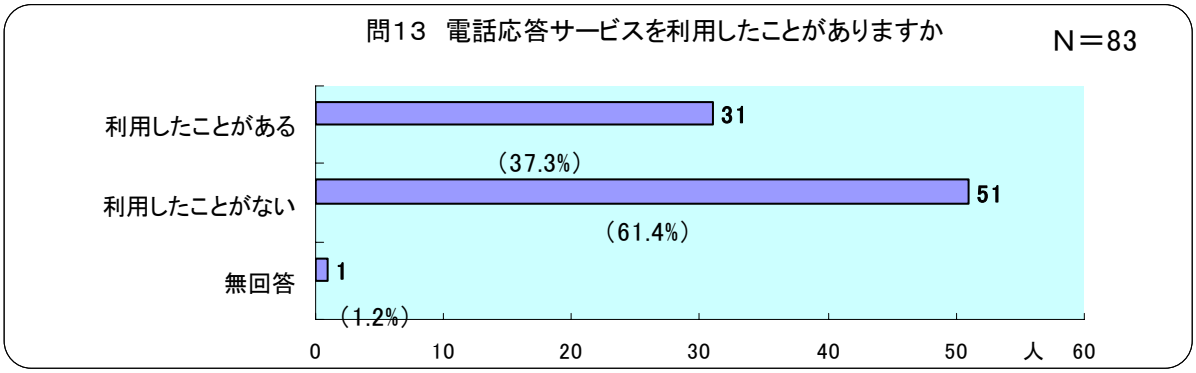


問 13　電話応対サービスを利用したことがありますか。

問 13 の質問に対しては、問 12 で「防災無線の内容を聞くことができる電話を知っている」と回答した 83 人に対し聞いたところ、「利用したことがある」と回答した方は 37.3%であった。「利用したことがない」と回答した方は 61.4%に上っている。

項　　目	2011 調査	
	実数（人）	構成比
1　利用したことがある	31	37.3%
2　利用したことがない	51	61.4%
3　無回答	1	1.2%
合計	83	100.0%

※今回の調査から始めたものであるため、比較は行っていない。

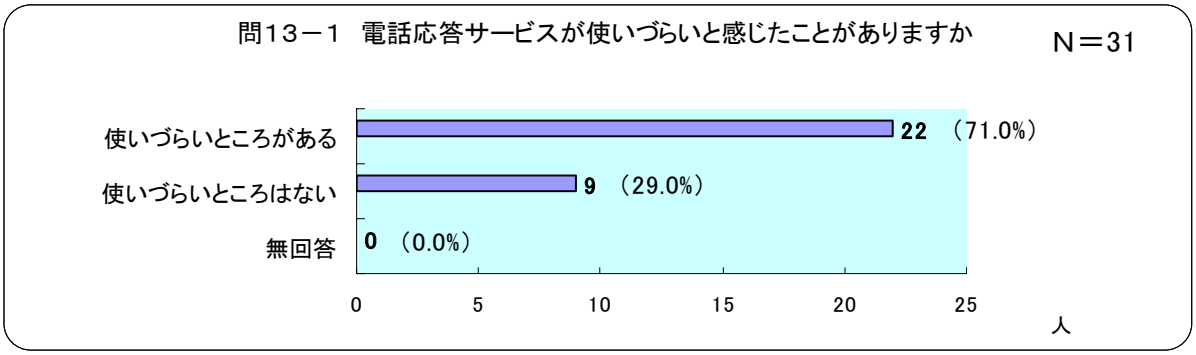


問 13-1　電話応答サービスを利用した際、使いづらいと感じたことがありますか。

問 13-1 の質問に対しては、問 13 で「電話応答サービスを利用したことがある」と回答した 31 人に対し聞いたところ、「使いづらいところがある」と回答した方は 71.0%であった。反対に、「使いづらいところはない」と回答した方は 29.0%となっており、今後は「使いやすさ」を研究していく必要がある。

項　　目	2011 調査	
	実数（人）	構成比
1　使いづらいところがある	22	71.0%
2　使いづらいところはない	9	29.0%
3　無回答	0	0.0%
合計	31	100.0%

※今回の調査から始めたものであるため、比較は行っていない。

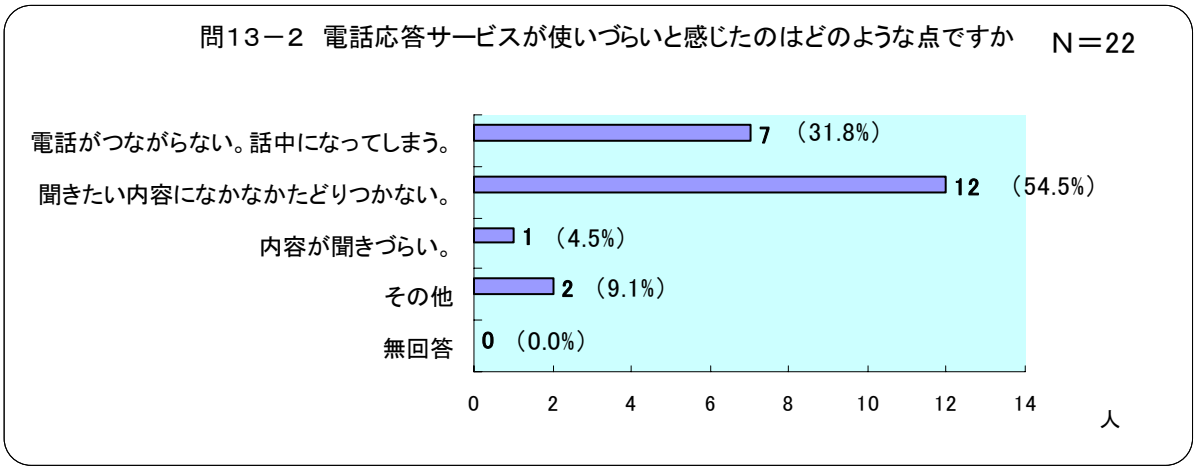


問 13-2　電話応答サービスが使いづらいと感じたのはどのような点ですか。

問 13-2 の質問に対しては、問 13-1 で「使いづらいところがある」と回答した 22 人に対し聞いたところ、「聞きたい内容にたどりつかいない」と回答した方が 54.5%で最も多く、「電話がつながらない。話中になってしまう。」と回答した方も 31.8%に上った。その反面、「内容が聞きづらい」と回答した方は少なく、その他の意見も少ないことから、「何を情報として聞きたいのか」ということを追求していくことが必要であると思われる。

項　　目	2011 調査	
	実数（人）	構成比
1　電話がつながらない。話中になってしまう。	7	31.8%
2　聞きたい内容にたどりつかない。	12	54.5%
3　内容が聞きづらい。	1	4.5%
4　その他	2	9.1%
5　無回答	0	0.0%
合計	22	100.0%

※今回の調査から始めたものであるため、比較は行っていない。



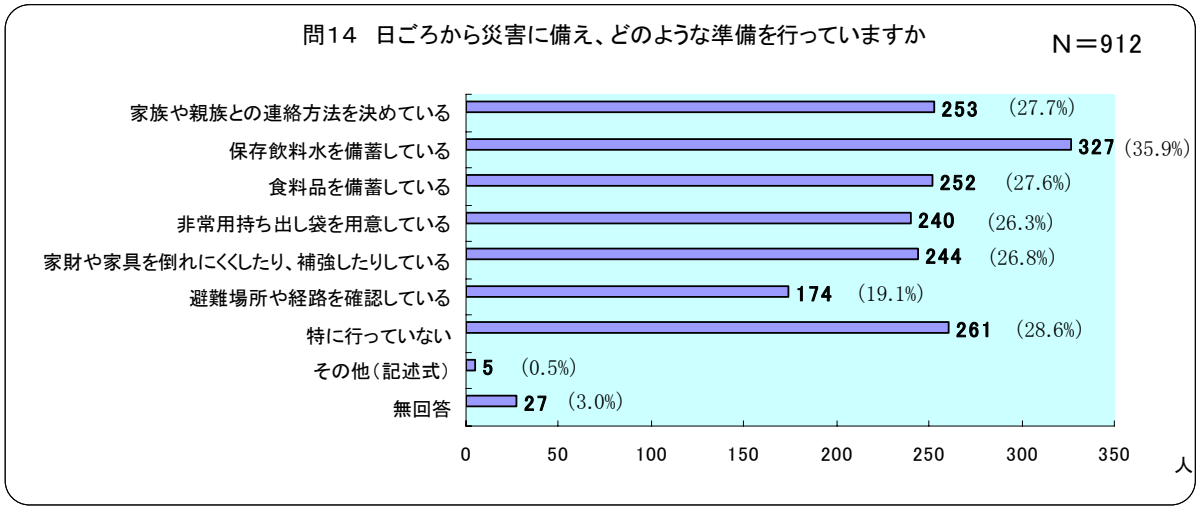
問 14　あなたは、日ごろから災害に備え、どのような準備を行っていますか。（あてはまるものをすべて）

問 14 の質問に対しては、複数回答であるが、「保存飲料水を備蓄している」と回答した方が多く 35.9%、次いで、「家族や親族との連絡方法を決めている」と 27.7%の方が回答している。また、僅差の回答では「食料品を備蓄している」、「家財や家具を倒れにくくしたり、補強している」、「非常用持ち出し袋を用意している」という結果となった。

前回調査との比較では、相対的な数も増加しており、逆に「特に行っていない」と回答した方が大幅に減少している。このことから、「東日本大震災」を教訓とした災害に対する意識の高揚が窺える。

項　　目	2011 調査		2008 調査	前回調査との対比
	実数（人）	構成比	実数（人）	
1　家族や親族との連絡方法を決めている	253	27.7%	194	130.4%
2　保存飲料水を備蓄している	327	35.9%	226	144.7%
3　食料品を備蓄している	252	27.6%	164	153.7%
4　非常用持ち出し袋を用意している	240	26.3%	217	110.6%
5　家財や家具を倒れにくくしたり、補強したりしている	244	26.8%	188	129.8%
6　避難場所や経路を確認している	174	19.1%	120	145.0%
7　特に行っていない	261	28.6%	380	68.7%
8　その他（記述式）	5	0.5%	5	100.0%
無回答	27	3.0%	26	103.8%
合計	1783(912)	195.5%	1520(922)	117.3%

（　）内は回答者数



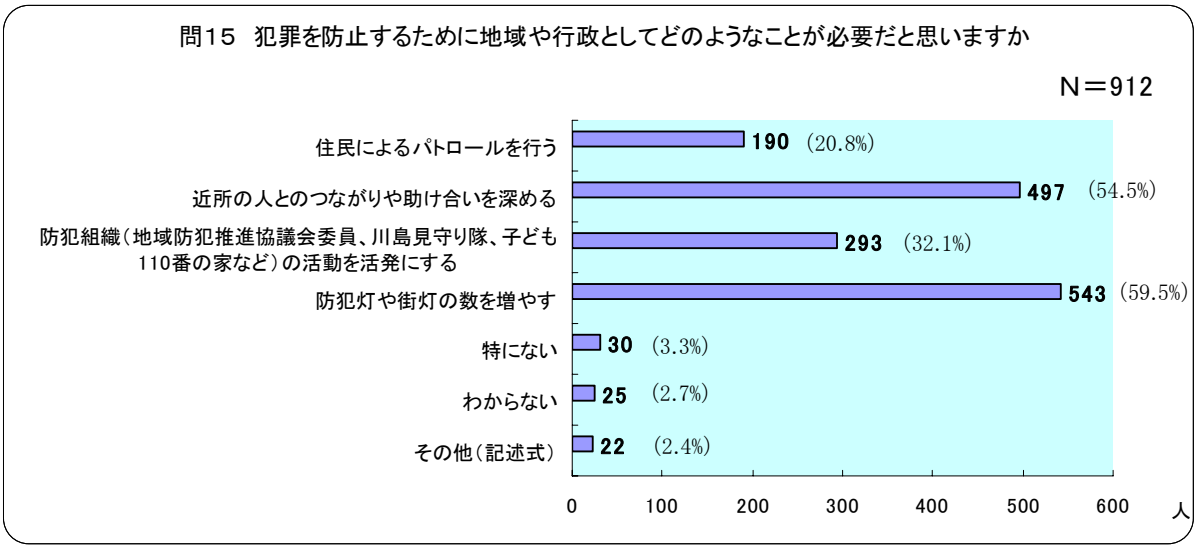
問 15　あなたは、犯罪を防止するために、地域や行政としてどのようなことが必要だと思いますか。（主なものを２つまで）

問 15 の質問に対しては、約６割の回答者が「防犯灯や街路灯を増やす」と回答している。次いで、5 割を超える方が「近所の人とのつながりや助け合いを深める」ことが必要と回答しており、「防犯組織の活動を活発にする」と回答する方も比較的多い結果となった。

前回調査との比較では、「防犯灯や街灯の数を増やす」と回答した方が減少し、その反面、「住民によるパトロールを行う」、「近所の人とのつながりや助け合いを深める」と回答した方が増える結果となった。

項　　目	2011 調査		2008 調査	前回調査との対比
	実数（人）	構成比	実数（人）	
1　住民によるパトロールを行う	190	20.8%	130	146.2%
2　近所の人とのつながりや助け合いを深める	497	54.5%	452	110.0%
3　防犯組織（地域防犯推進協議会委員、川島見守り隊、子ども 110 番の家など）の活動を活発にする	293	32.1%	361	81.2%
4　防犯灯や街灯の数を増やす	543	59.5%	645	84.2%
5　特にない	30	2.0%	18	166.7%
6　わからない	25	2.2%	20	125.0%
7　その他（記述式）	22	3.0%	28	78.6%
合計	1600(912)	174.1%	1654(922)	96.7%

（　）内は回答者数



自治・コミュニティ活動についておたずねします。

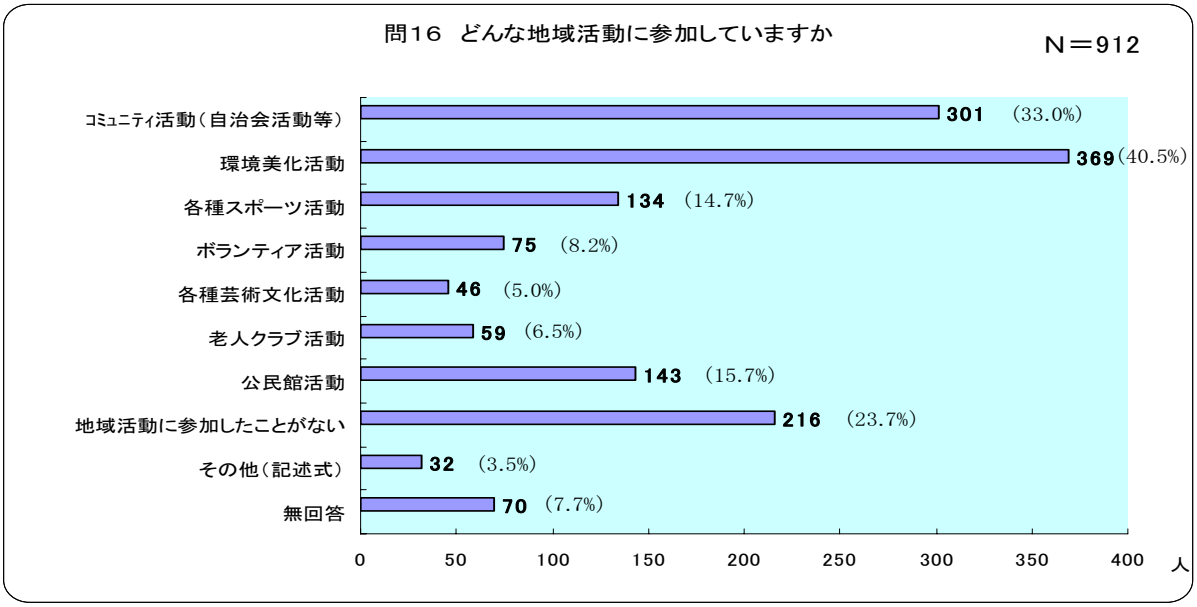
問 16　あなたは、現在、どのような地域活動に参加していますか。（主なものを３つまで）

問 16 の質問に対しては、「環境美化運動」と回答した方が一番多く 40.5%、次いで、「コミュニティ活動」を挙げる方が多く 33.0%の回答であった。また、比較的多い回答は「公民館活動」、「各種スポーツ活動」という結果となった。しかしながら、「地域活動に参加したことがない」と回答する方も 23.7%という結果となった。

前回調査との比較では、大きな変化は見られなかった。

項　　目	2011 調査		2008 調査	前回調査との対比
	実数（人）	構成比	実数（人）	
1　コミュニティ活動（自治会活動等）	301	33.0%	272	110.7%
2　環境美化活動	369	40.5%	330	111.8%
3　各種スポーツ活動	134	14.7%	153	87.6%
4　ボランティア活動	75	8.2%	54	138.9%
5　各種芸術文化活動	46	5.0%	48	95.8%
6　老人クラブ活動	59	6.5%	65	90.8%
7　公民館活動	143	15.7%	167	85.6%
8　地域活動に参加したことがない	216	23.7%	214	100.9%
9　その他（記述式）	32	3.5%	27	118.5%
無回答	70	7.7%	98	71.4%
合計	1445(912)	158.4%	1428(922)	101.2%

（　）内は回答者数

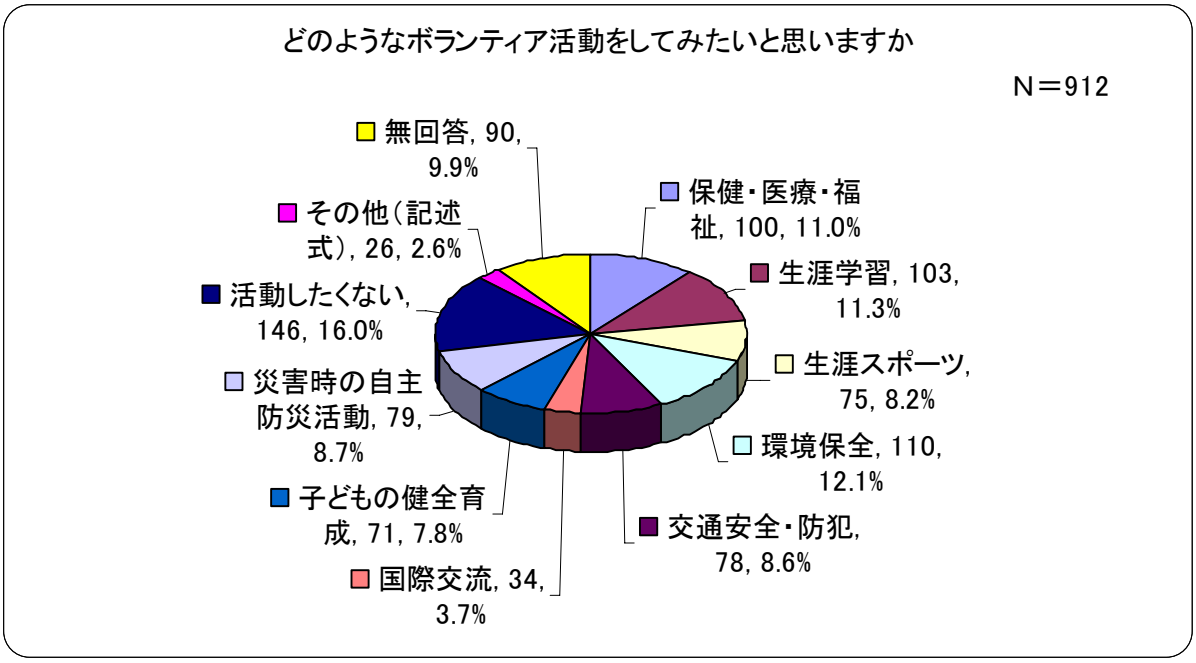


問 17　あなたは、どのようなボランティア活動をしてみたいと思いますか。（答えは１つ）

問 17 の質問に対しては、まとまった回答は少なく「環境保全」と回答した方が 12.1%、「生涯学習」と回答した方が 11.3%、「保健・医療・福祉」とした方が 11.0%と言う結果となった。しかしながら「活動したくない」と回答した者も多く、率の上では一番多いという結果となった。

前回調査との比較では、大きな変化は見られなかった。

項　　目	2011 調査		2008 調査	前回調査との対比
	実数（人）	構成比	実数（人）	
1　保健･医療･福祉	100	11.0%	116	86.2%
2　生涯学習	103	11.3%	98	105.1%
3　生涯スポーツ	75	8.2%	79	95.0%
4　環境保全	110	12.1%	82	134.1%
5　交通安全･防犯	78	8.6%	87	89.7%
6　国際交流	34	3.7%	44	77.3%
7　子どもの健全育成	71	7.8%	89	79.8%
8　災害時の自主防災活動	79	8.7%	50	158.0%
9　活動したくない	146	16.0%	139	105.0%
10　その他（記述式）	26	2.9%	24	108.3%
無回答	90	9.9%	114	78.9%
合計	912	100.0%	922	98.9%



まちづくりについておたずねします。

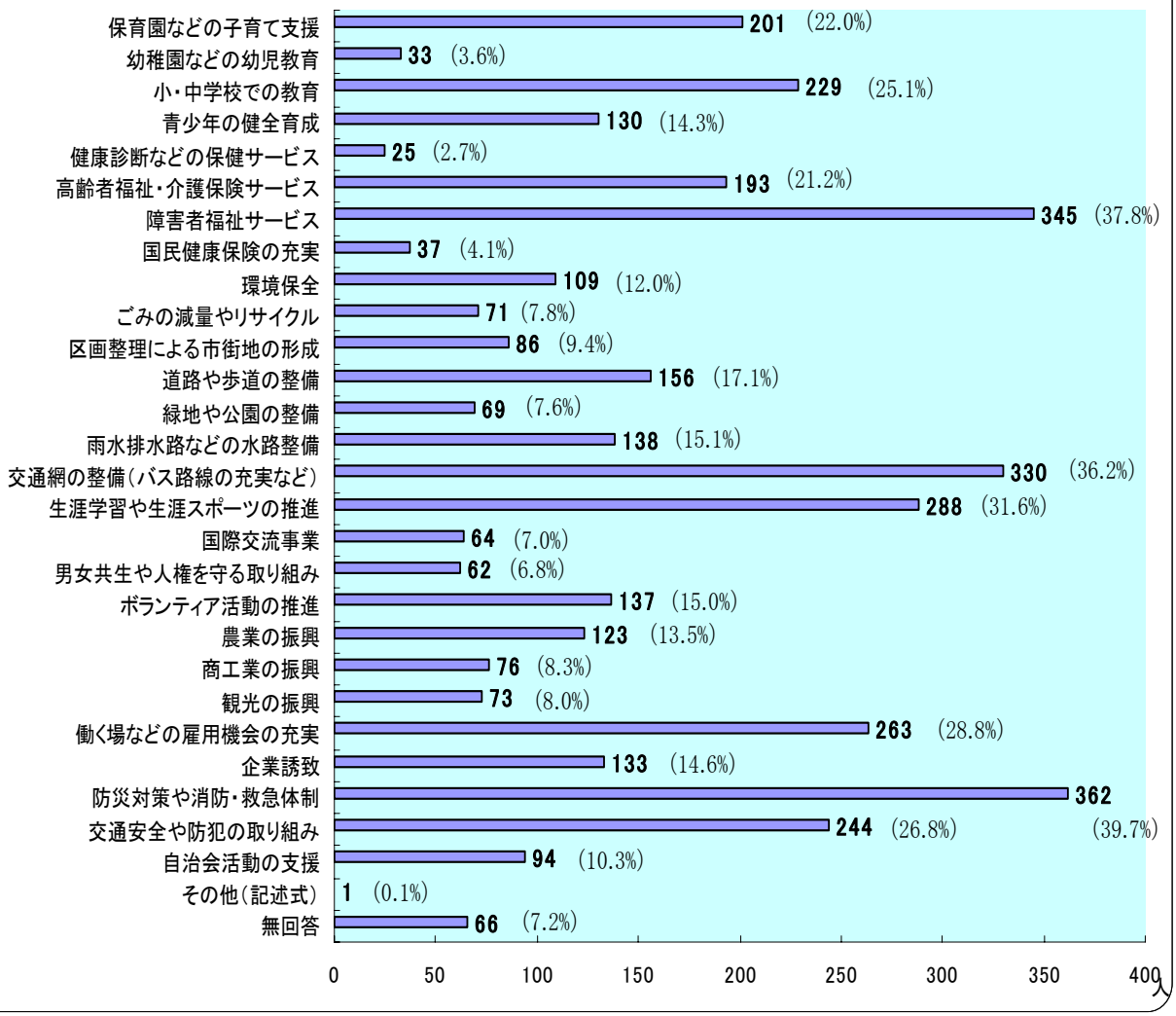
問18　あなたは、町が今後重点的に取り組んでいくべき事業は何だと思いますか。（区分ごとに複数回答）

問 18 の質問に対しては、複数回答であるが、3 割以上の回答があった項目については、「障害者福祉サービス」、「交通網の整備」、「生涯学習や生涯スポーツの推進」、「防災対策や消防・救急体制」が挙げられた。

前回調査との比較では、「障害者福祉サービス」が大きく数値を伸ばしている。

項　　目	2011 調査		2008 調査	前回調査との対比
	実数（人）	構成比	実数（人）	
1　保育園などの子育て支援	201	22.0%	152	132.2%
2　幼稚園などの幼児教育	33	3.6%	24	137.5%
3　小･中学校での教育	229	25.1%	235	97.4%
4　青少年の健全育成	130	14.3%	206	63.1%
5　健康診断などの保健サービス	25	2.7%	195	12.8%
6　高齢者福祉･介護保険サービス	193	21.2%	309	62.5%
7　障害者福祉サービス	345	37.8%	31	1112.9%
8　国民健康保険の充実	37	4.1%	96	38.5%
9　環境保全	109	12.0%	81	134.6%
10　ごみの減量やリサイクル	71	7.8%	65	109.2%
11　区画整理による市街地の形成	86	9.4%	80	107.5%
12　道路や歩道の整備	156	17.1%	167	93.4%
13　緑地や公園の整備	69	7.6%	76	90.8%
14　雨水排水路などの水路整備	138	15.1%	149	92.6%
15　交通網の整備（バス路線の充実など）	330	36.2%	311	106.1%
16　生涯学習や生涯スポーツの推進	288	31.6%	298	96.6%
17　国際交流事業	64	7.0%	63	101.6%
18　男女共生や人権を守る取り組み	62	6.8%	72	86.1%
19　ボランティア活動の推進	137	15.0%	127	107.9%
20　農業の振興	123	13.5%	141	87.2%
21　商工業の振興	76	1.4%	75	101.3%
22　観光の振興	73	8.0%	77	94..8%
23　働く場などの雇用機会の充実	263	28.8%	253	104.0%
24　企業誘致	133	14.6%	117	113.7%
25　防災対策や消防･救急体制	362	39.7%	326	111.0%
26　交通安全や防犯の取り組み	244	26.8%	260	93.8%
27　自治会活動の支援	94	10.3%	93	101.1%
28　その他（記述式）	1	0.1%	9	11.1%
無回答	66	7.2%	90	73.3%
合計	4138	453.1%	4178	99.0%

問18 町が今後、重点的に取り組んでいくべき事業は何だと思いますか　N＝912



購買行動についておたずねします。

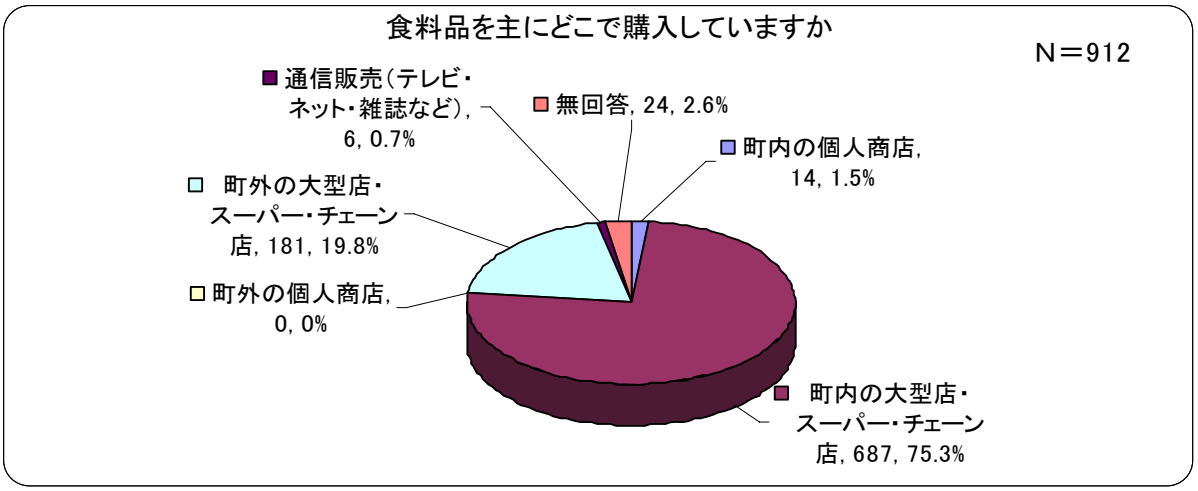
問 19　あなたは、次の商品を主にどこで購入していますか。（答えは１つ）

ア　食料品

問 19 の質問に対して、食料品の購入先を質問したところ、「町内の大型店、スーパー・チェーン店」と回答した者が大多数となり 75.3%であった。「町外の大型店、スーパー・チェーン店」と回答した者は 19.8%であったが、「町内の個人商店」と回答した者は 1.5%と少ない結果となった。

前回調査との比較では、「町外の大型店、スーパー・チェーン店」と回答した者が減少し、「町内の大型店、スーパー・チェーン店」と回答した者が前回調査より大きく増加している。

項　　目	2011 調査		2008 調査	前回調査との対比
	実数（人）	構成比	実数（人）	
1　町内の個人商店	14	1.5%	16	87.5%
2　町内の大型店･スーパー･チェーン店	687	75.3%	611	112.4%
3　町外の個人商店	0	0.0%	0	100.0%
4　町外の大型店･スーパー･チェーン店	181	19.8%	231	78.4%
5　通信販売（テレビ･ネット･雑誌など）	6	0.7%	5	120.0%
無回答	24	2.6%	59	40.7%
合計	912	100.0%	922	98.9%

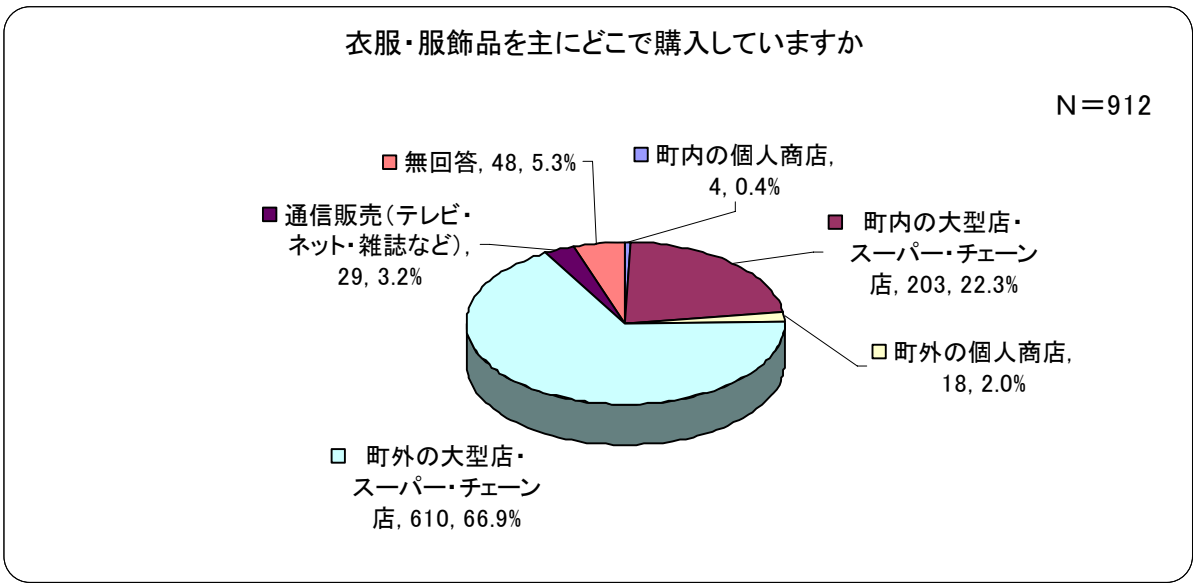


イ　衣料・服飾品

「衣料・服飾品」について購入先を質問したところ、食料品と異なり「町外の大型店、スーパー・チェーン店」と回答した者が大多数で 66.9%であった。また、「町内の大型店、スーパー・チェーン店」と回答した者は 22.3%あった。「通信販売」と回答した者は、わずかではあるが 3.2%となっている。

前回調査との比較では、大きな変化は見られなかった。

項　　目	2011 調査		2008 調査	前回調査との対比
	実数（人）	構成比	実数（人）	
1　町内の個人商店	4	0.4%	14	28.6%
2　町内の大型店･スーパー･チェーン店	203	22.3%	202	100.5%
3　町外の個人商店	18	2.0%	20	90.0%
4　町外の大型店･スーパー･チェーン店	610	66.9%	597	102.2%
5　通信販売（テレビ･ネット･雑誌など）	29	3.2%	20	145.0%
無回答	48	5.3%	69	69.6%
合計	912	100.0%	922	98.9%

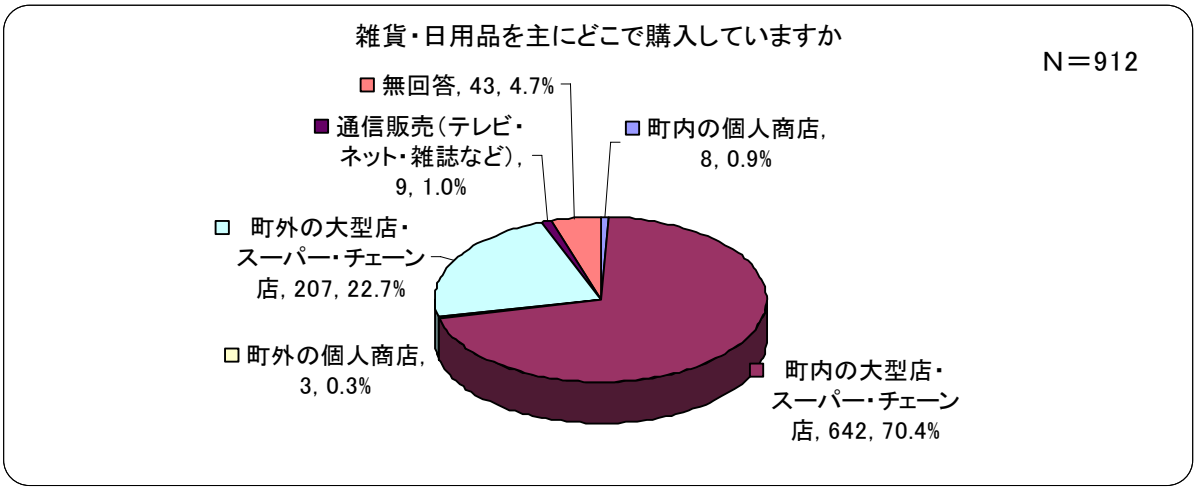


ウ　雑貨・日用品

「雑貨・日用品」について購入先を質問したところ、食料品とほぼ同様で「町内の大型店、スーパー・チェーン店」と回答した者が大多数で 70.4%であった。「町外の大型店、スーパー・チェーン店」と回答した者は 22.7%あったが、「町内の個人店」と答えた者は 0.9%と少ない結果となった。

前回調査との比較では、食料品と同様に「町外の大型店、スーパー・チェーン店」と回答した者が減少し、「町内の大型店、スーパー・チェーン店」と回答した者が前回調査より大きく増加している。

項　　目	2011 調査		2008 調査	前回調査との対比
	実数（人）	構成比	実数（人）	
1　町内の個人商店	8	0.9%	22	36.4%
2　町内の大型店･スーパー･チェーン店	642	70.4%	566	113.4%
3　町外の個人商店	3	0.3%	4	75.0%
4　町外の大型店･スーパー･チェーン店	207	22.7%	252	82.1%
5　通信販売（テレビ･ネット･雑誌など）	9	1.0%	5	180.0%
無回答	43	4.7%	73	58.9%
合計	912	100.0%	922	98.9%

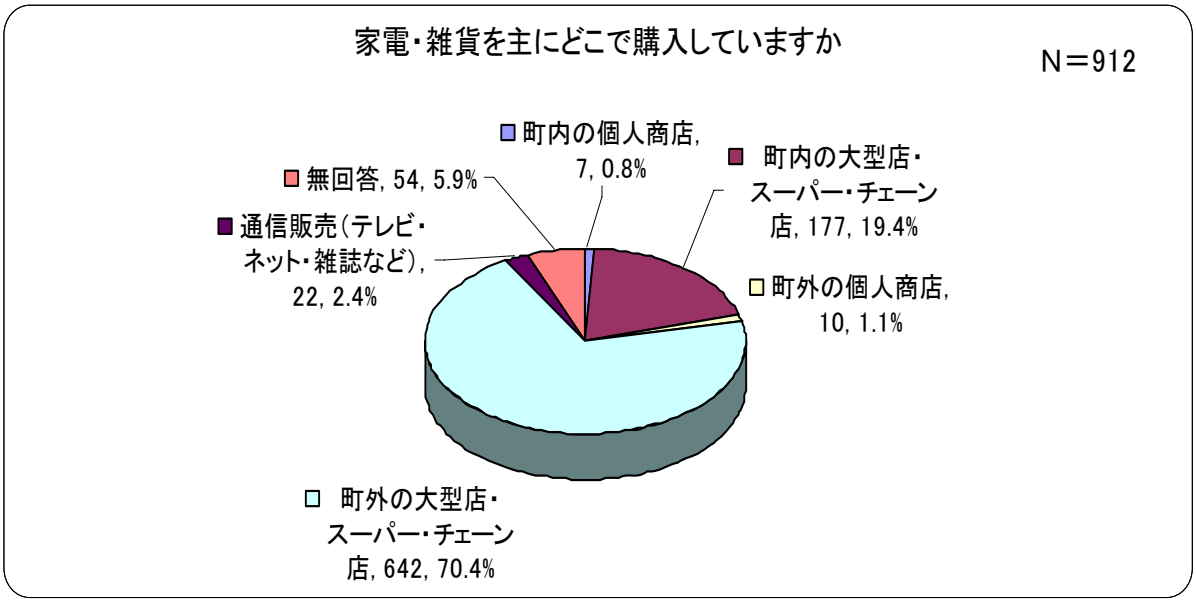


エ　家具・家電

「家具・家電」について購入先を質問したところ、「町外の大型店、スーパー・チェーン店」と回答した者が大多数で 70.4%であった。また、「町内の大型店、スーパー・チェーン店」と回答した者は 19.4%あった。「通信販売」と答えた者は、わずかではあるが 2.4%となっている。

前回調査との比較では、「町外の大型店、スーパー・チェーン店」、「町内の大型店、スーパー・チェーン店」ともに微増ではあるが数値を伸ばしている。

項　　目	2011 調査		2008 調査	前回調査との対比
	実数（人）	構成比	実数（人）	
1　町内の個人商店	7	0.8%	16	43.8%
2　町内の大型店･スーパー･チェーン店	177	19.4%	161	109.9%
3　町外の個人商店	10	1.1%	14	71.4%
4　町外の大型店･スーパー･チェーン店	642	70.4%	623	103.0%
5　通信販売（テレビ･ネット･雑誌など）	22	2.4%	21	104.8%
無回答	54	5.9%	87	62.1%
合計	912	100.0%	922	98.9%

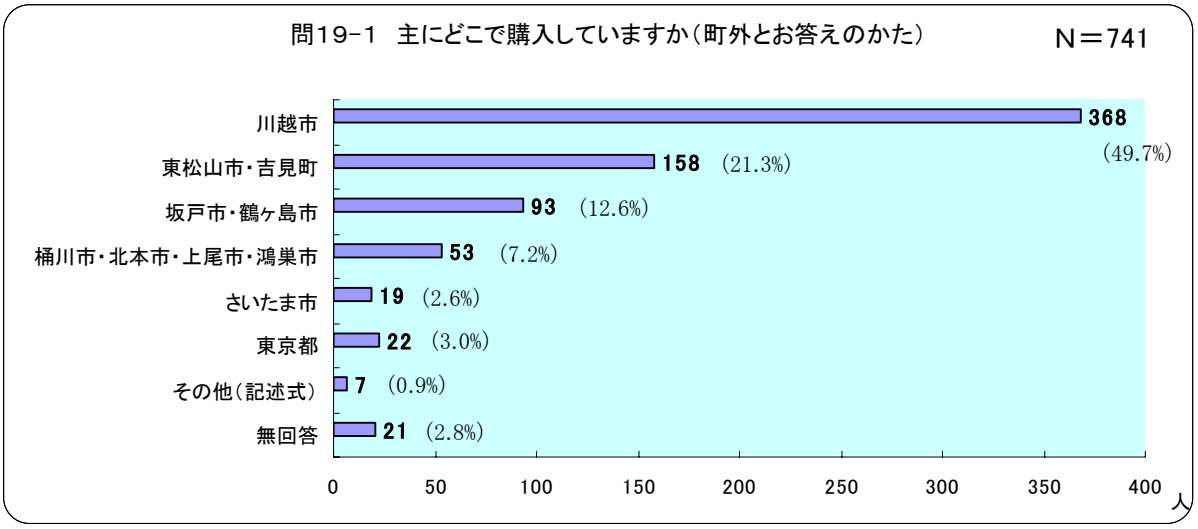


問 19 - 1　主に次のどこで購入していますか。（答えは１つ）

問 19 で、各商品の購入先について、町外で購入しているかた 741 人に、主にどこで購入しているか質問したところ、「川越市」と答えた者が 49.7%と一番多い結果となった。次いで、「東松山市・吉見町」が 21.3%、「坂戸市・鶴ヶ島市」が 12.6%となっている。

前回調査との比較では、若干ではあるものの「川越市」と回答した方が減少している。その反面、「東松山市・吉見町」と回答した方が同数程度、数字を伸ばす結果となった。

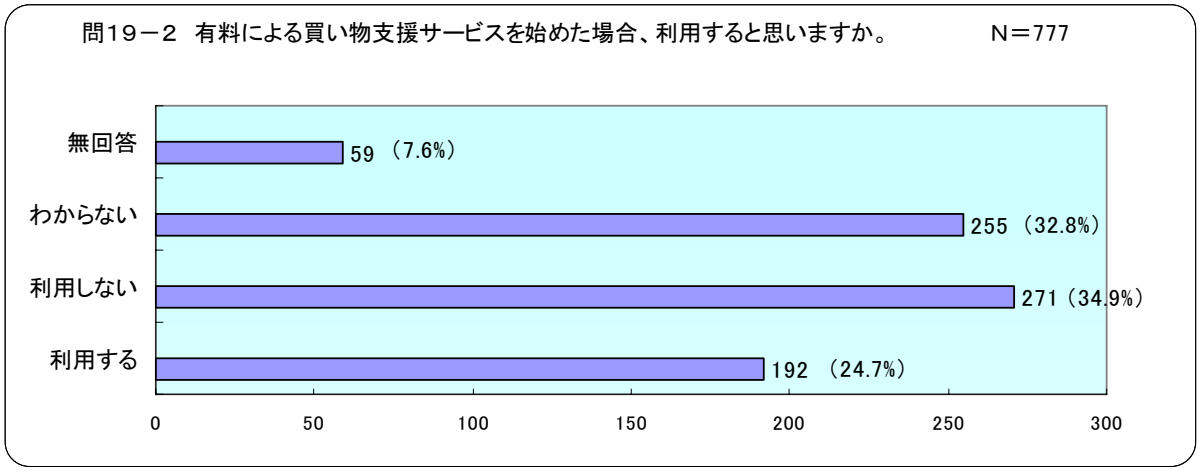
項　　目	2011 調査		2008 調査	前回調査との対比
	実数（人）	構成比	実数（人）	
1　川越市	368	49.7%	401	91.8%
2　東松山市･吉見町	158	21.3%	102	154.9%
3　坂戸市･鶴ヶ島市	93	12.6%	105	88.6%
4　桶川市･北本市･上尾市･鴻巣市	53	7.2%	60	88.3%
5　さいたま市	19	2.6%	8	237.5%
6　東京都	22	3.0%	25	88.0%
7　その他（記述式）	7	0.9%	12	58.3%
無回答	21	2.8%	30	70.0%
合計	741	100.0%	743	99.7%



問 19 - 2　有料による買い物支援サービスを始めた場合、利用すると思いますか。（問 19 で 1、2、5 と回答した方）

問 19 のアからエで、町内、通信販売で購入しているかた 777 人に、有料による買い物支援サービスを利用しますかと質問したところ、「利用する」と回答した方が 24.7%、「利用しない」と回答した方が 34.9%となり、「利用しない」方が 10.2%多い結果となった。また、「わからない」と回答した方も 32.8%に上り、全体の約３分の１を占めている。

項目	実数（人）	構成比
1　利用する	192	24.7%
2　利用しない	271	34.9%
3　わからない	255	32.8%
無回答	59	7.6%
合計	777	100.0%



特定の行政分野についておたずねします。

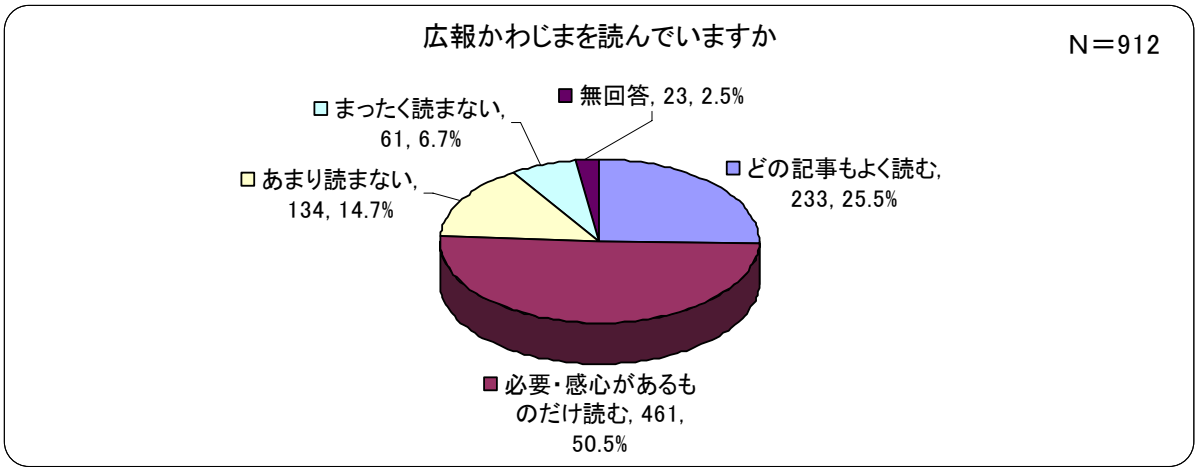
①「広報かわじま」と「川島町公式ホームページ」について

問 20　あなたは、「広報かわじま」を読んでいますか。（答えは１つ）

問 20 の質問に対しては、50.5%の回答者が「必要・関心があるものだけ読む」と回答しており、次いで「どの記事もよく読む」と回答した方 25.5%と合せると、76.0%の回答者が広報紙を読んでいるという結果となった。しかしながら、「あまり読まない」、「まったく読まない」と回答する者を合わせると 21.4%となる結果となった。

前回調査との比較では、大きな変化は見られなかった。

項　　目	2011 調査		2008 調査	前回調査との対比
	実数（人）	構成比	実数（人）	
1　どの記事もよく読む	233	25.5%	246	94.7%
2　必要･感心があるものだけ読む	461	50.5%	463	99.6%
3　あまり読まない	134	14.7%	135	99.3%
4　まったく読まない	61	6.7%	49	124.5%
無回答	23	2.5%	29	79.3%
合計	912	100.0%	922	98.9%



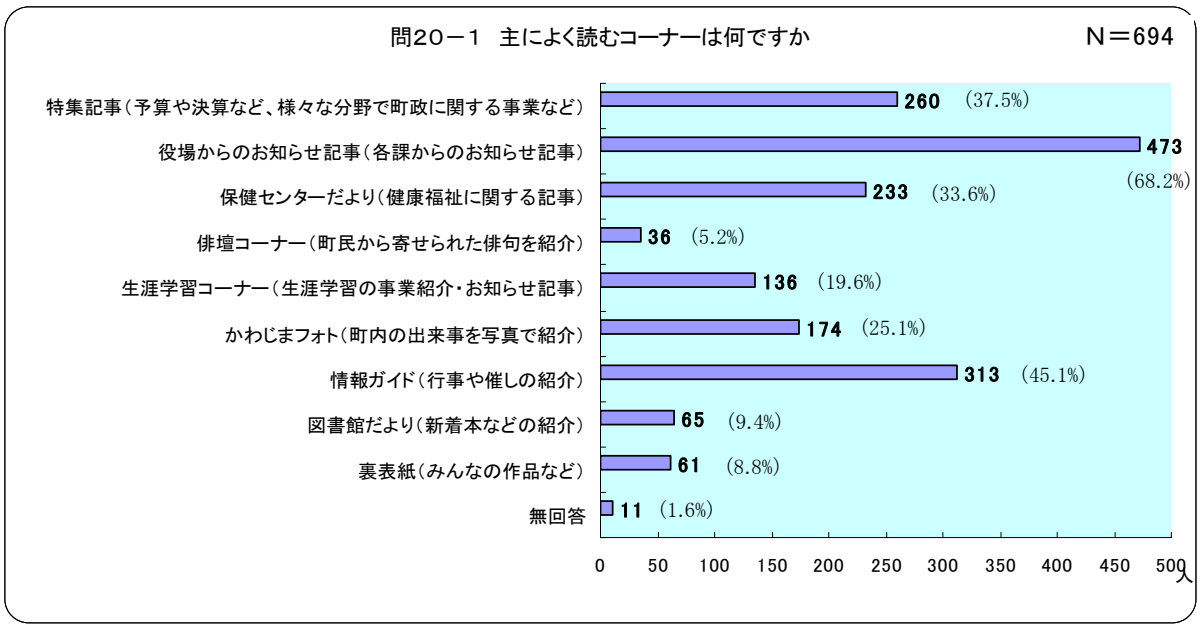
問 20ー1　主によく読むコーナーは何ですか。（主なものを３つまで）

問 20 で広報紙を読むと回答した 694 人に「主によく読むコーナーは何ですか」と質問したところ、複数回答であるが、圧倒的に多かった回答は「役場からのお知らせ記事」で 68.2%、次いで、「情報ガイド」が 45.1%であった。また、3 割以上の者が「特集記事」と「保健センターだより」を読んでいるという結果となった。

前回調査との比較では、大きな変化は見られなかった。

項　　目	2011 調査		2008 調査	前回調査との対比
	実数（人）	構成比	実数（人）	
1　特集記事（予算や決算など、様々な分野で町政に関する事業など）	260	37.5%	252	103.2%
2　役場からのお知らせ記事（各課からのお知らせ記事）	473	68.2%	451	104.9%
3　保健センターだより（健康福祉に関する記事）	233	33.6%	225	103.6%
4　俳壇コーナー（町民から寄せられた俳句を紹介）	36	5.2%	40	90.0%
5　生涯学習コーナー（生涯学習の事業紹介・お知らせ記事）	136	19.6%	141	96.5%
6　かわじまフォト（町内の出来事を写真で紹介）	174	25.1%	163	106.7%
7　情報ガイド（行事や催しの紹介）	313	45.1%	314	99.7%
8　図書館だより（新着本などの紹介）	65	9.4%	62	104.8%
9　裏表紙（みんなの作品など）	61	8.8%	104	58.7%
無回答	11	1.6%	36	30.6%
合計	1762（694）	253.9%	1859（709）	94.8%

（　）内は回答者数

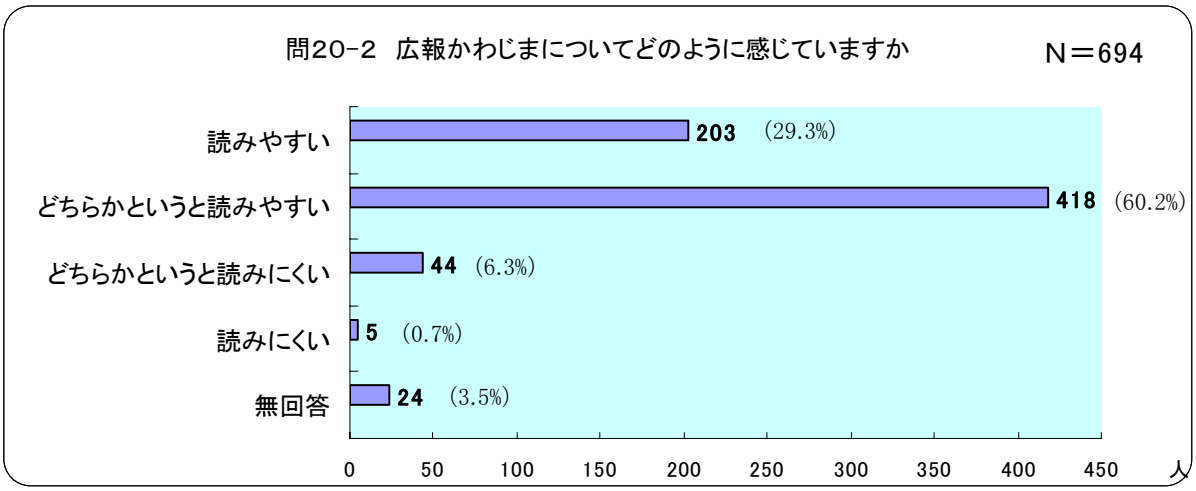


問 20ー2　「広報かわじま」についてどのように感じていますか。（答えは１つ）

問 20 で「どの記事もよく読む」、「必要、感心があるものだけ読む」と回答した 694 人に「広報かわじまについてどのように感じていますか」と質問したところ、60.2%の方が「どちらかというと読みやすい」と回答しており、「読みやすい」と回答した方も 29.3%あった。しかしながら、「どちらかというと読みにくい」、「読みにくい」と回答した方は、少数ではあるが 7.0%であった。

前回調査との比較では、大きな変化は見られなかった。

項　　目	2011 調査		2008 調査	前回調査との対比
	実数（人）	構成比	実数（人）	
1　読みやすい	203	29.3%	194	104.5%
2　どちらかというと読みやすい	418	60.2%	419	99.8%
3　どちらかというと読みにくい	44	6.3%	40	110.0%
4　読みにくい	5	0.7%	1	500.0%
無回答	24	3.5%	55	43.6%
合計	694	100.0%	709	97.9%

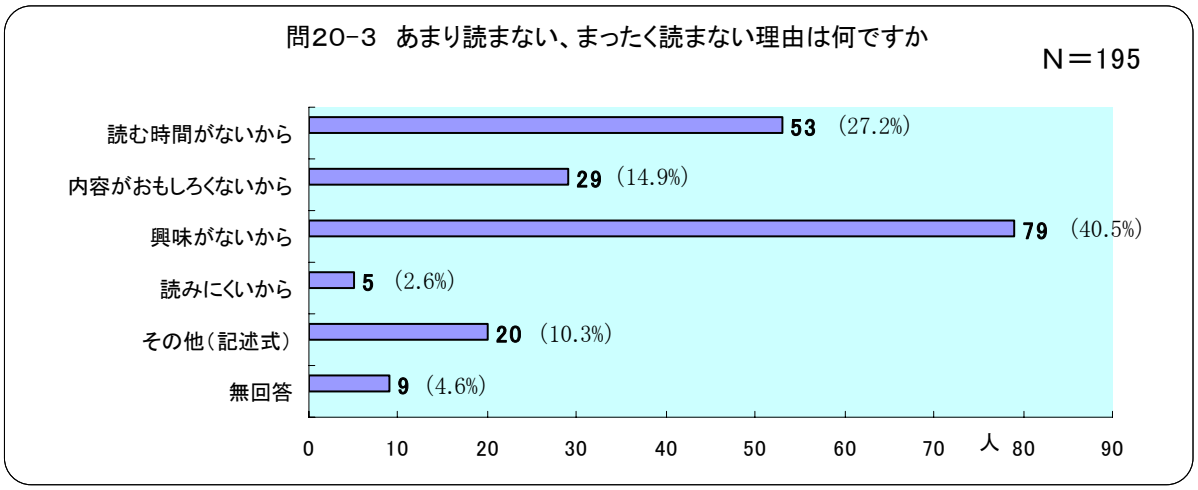


問 20－3　あまり読まない、まったく読まない理由はなんですか。（答えは１つ）

問 20 で広報紙を「あまり読まない」、「まったく読まない」と回答した 195 人にその理由を質問したところ、「興味がないから」と回答した方が一番多く 40.5%であった。次いで、「読む時間がないから」と回答した方が 27.2%、また、「内容が面白くないから」と回答した者が 14.9%であった。

前回調査との比較では、「興味がないから」と回答した方が、若干ではあるが増加傾向にある結果となった。

項　　目	2011 調査		2008 調査	前回調査との対比
	実数（人）	構成比	実数（人）	
1　読む時間がないから	53	27.2%	47	112.7%
2　内容がおもしろくないから	29	14.9%	37	78.8%
3　興味がないから	79	40.5%	63	125.4%
4　読みにくいから	5	2.6%	6	83.3%
5　その他（記述式）	20	10.3%	20	100.0%
無回答	9	4.6%	11	81.8%
合計	195	100.0%	184	106.0%

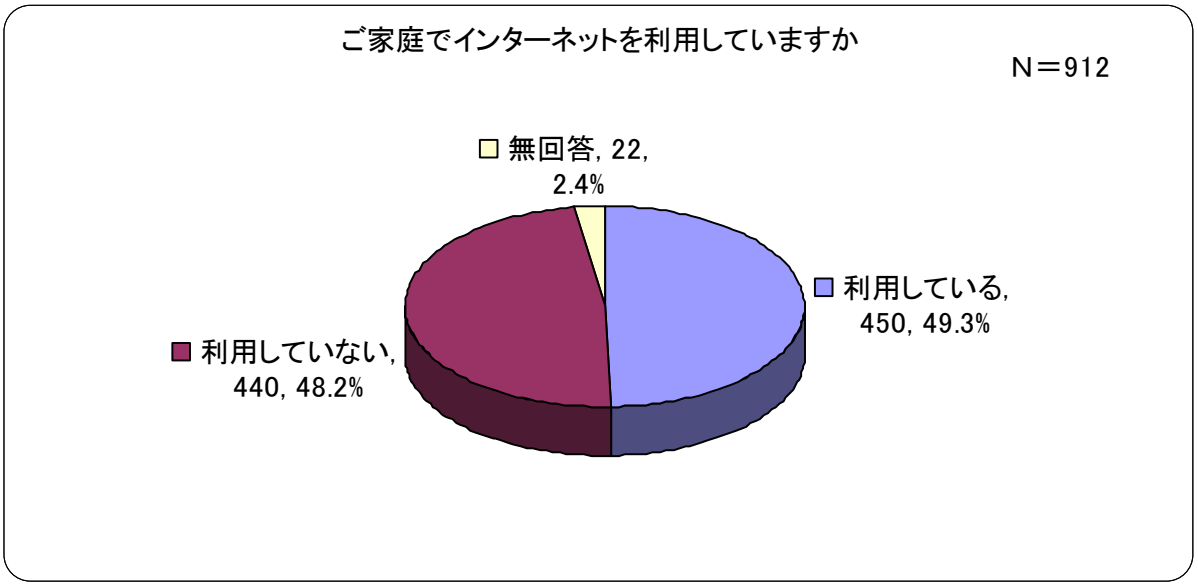


問 21　あなたはご家庭で、インターネット（ホームページの閲覧や電子メール）を利用していますか。（答えは１つ）

問 21 の質問に対しては、「利用している」と回答した方が過半数は超えていないものの、49.3%となり、「利用していない」と回答した方 48.2%を 1.1 ポイント上回る結果となった。

前回調査との比較では、「利用している」、「利用していない」が逆転することとなり、社会の動態を反映する結果となっている。

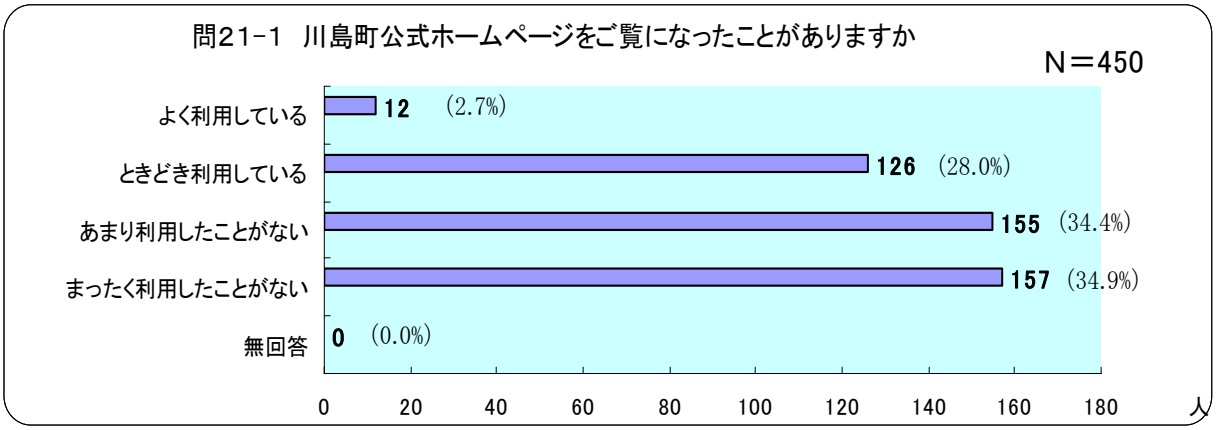
項　　目	2011 調査		2008 調査	前回調査との対比
	実数（人）	構成比	実数（人）	
1　利用している	450	49.3%	398	113.1%
2　利用していない	440	48.2%	483	91.1%
無回答	22	2.4%	41	53.7%
合計	912	100.0%	922	98.9%



問 21－1　あなたは、「川島町公式ホームページ」をご覧になったことがありますか。（答えは１つ）

問 21 で、「インターネットを利用している」と答えた 450 人に「川島町公式ホームページをご覧になったことがありますか」と質問したところ、「まったく利用したことがない」と回答した方が４割を超え、「あまり利用したことがない」と回答した方 31.7%と合わせると、71.9%となった。なお、「よく利用している」、「ときどき利用している」と回答した者を合わせても 27.4%となり、町ホームページを活用してもらうよう周知を図る必要がある結果となった。

項　　目	2011 調査		2008 調査	前回調査との対比
	実数（人）	構成比	実数（人）	
1　よく利用している	12	2.3%	9	133.3%
2　ときどき利用している	126	25.1%	100	126.0%
3　あまり利用したことがない	155	31.7%	126	123.0%
4　まったく利用したことがない	157	40.2%	160	98.1%
無回答	0	0.8%	3	0.0%
合計	450	100.0%	398	113.1%

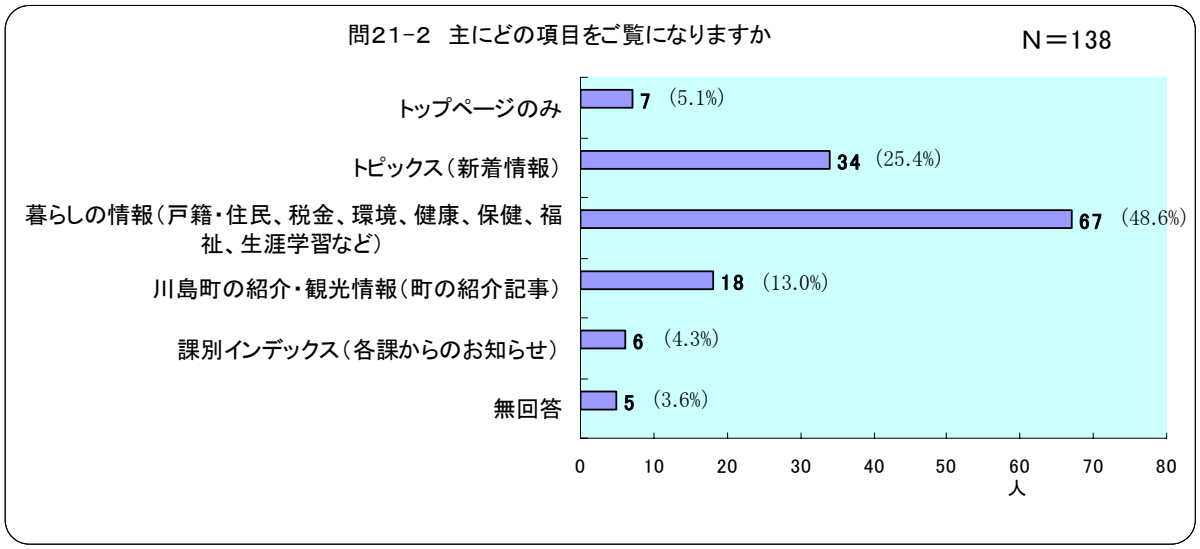


問 21－2　主に次のどの項目をご覧になりますか。（答えは１つ）

問 21 - 1 で、町ホームページを「よく利用している」、「ときどき利用している」と答えた 138 人に、主にどの項目を見るのか質問したところ、「暮らしのガイド」と回答した方が 48.6%と一番多く、次いで「トピックス」と回答した方が 25.4%となった。

前回調査との比較では、全体的にホームページを見ている方は増えているものの、項目別の割合では大きな変化は見られなかった。

項　　目	2011 調査		2008 調査	前回調査との対比
	実数（人）	構成比	実数（人）	
1　トップページのみ	7	5.1%	7	100.0%
2　トピックス（新着情報）	35	25.4%	21	166.7%
3　暮らしのガイド（戸籍・住民、税金、環境、健康、保健、福祉、生涯学習など）	67	48.6%	52	128.8%
4　町の紹介・観光・施設ガイド（町の紹介記事）	18	13.0%	14	128.6%
5　課別インデックス（各課からのお知らせ）	6	4.3%	13	46.2%
無回答	5	3.6%	2	250.0%
合計	138	100.0%	109	126.6%

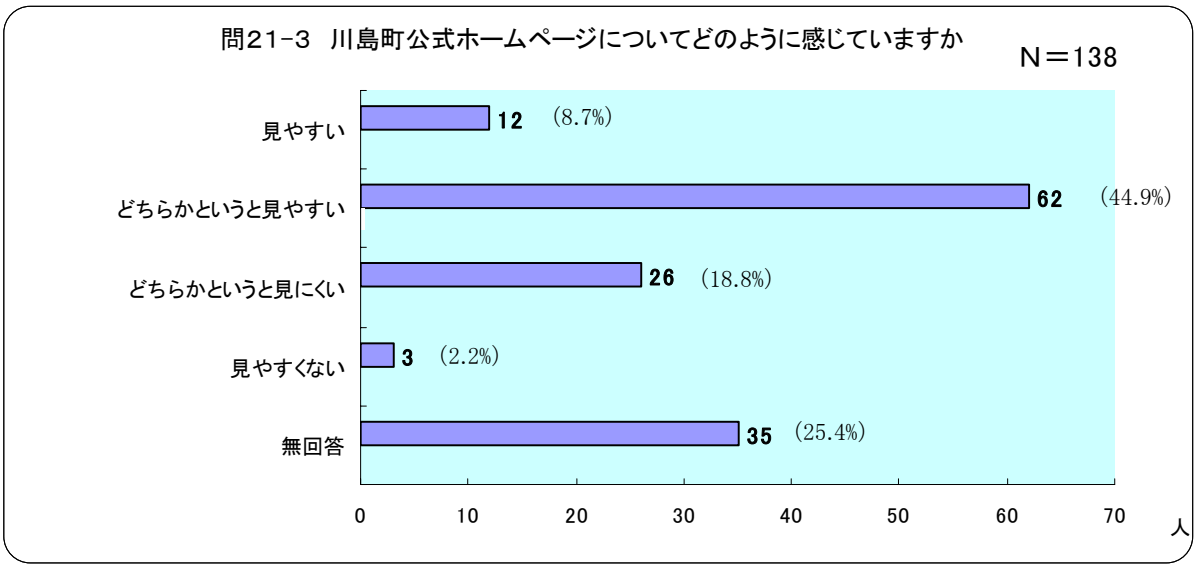


問 21－3　「川島町公式ホームページ」についてどのように感じていますか。（答えは１つ）

問 21 - 1 で、町ホームページを「よく利用している」、「ときどき利用している」と答えた 138 人に、川島町公式ホームページがどのように感じているか質問したところ、「どちらかというと見やすい」と回答した方が 44.9%と一番も多く、「見やすい」と回答した方と合わせると 53.6%が見やすく感じている結果となった。「どちらかというと見にくい」と回答する者は 18.8%であった。

前回調査との比較では、大きな変化は見られなかった。

項　　目	2011 調査		2008 調査	前回調査との対比
	実数（人）	構成比	実数（人）	
1　見やすい	12	8.7%	13	92.3%
2　どちらかというと見やすい	62	44.9%	62	100.0%
3　どちらかというと見にくい	26	18.8%	19	136.8%
4　見やすくない	3	2.2%	8	37.5%
無回答	35	25.4%	7	500.0%
合計	138	100.0%	109	126.6%



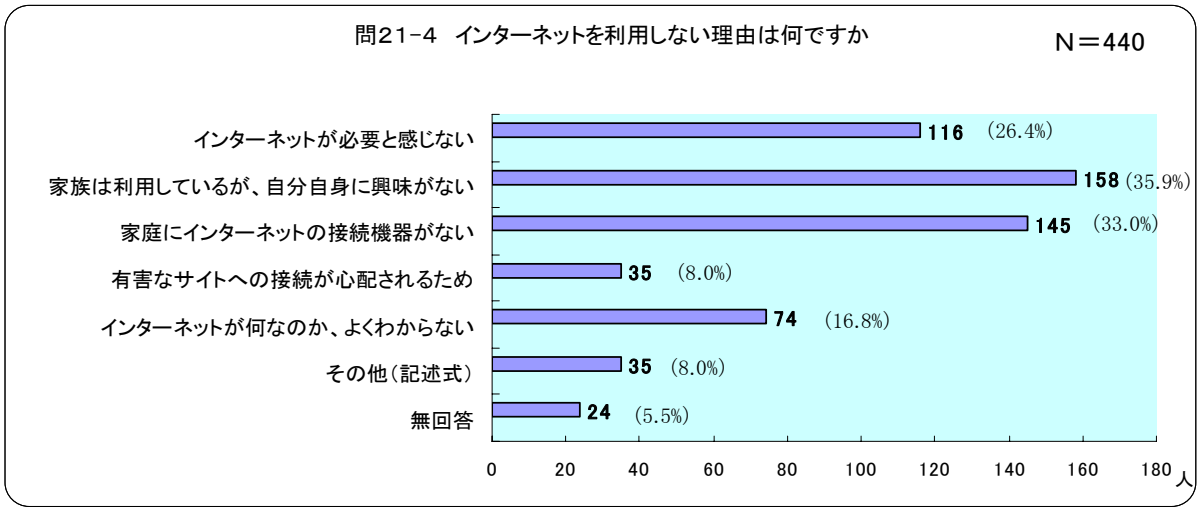
問 21－4　インターネットを利用していない理由は何ですか。（あてはまるものすべて）

問 21 で、「インターネットを利用していない」と答えた 440 人に、その理由を質問したところ、複数回答ではあるが、「家族は利用しているが、自分自身に興味がない」と回答した方が 35.9%、次いで「家庭にインターネットの接続機器がない」と回答した方が 33.0%となった。「インターネットが必要と感じない」と回答した方も 26.4%と比較的多い結果となった。

前回調査との比較では、３年間で「家庭にインターネットの接続機器がない」と回答した方が割合で２割程度減少した。この結果から、今後もインターネットの普及は進むことが考えられる。

項　　目	2011 調査		2008 調査	前回調査との対比
	実数（人）	構成比	実数（人）	
1　インターネットが必要と感じない	116	26.4%	125	92.8%
2　家族は利用しているが、自分自身に興味がない	158	35.9%	155	101.9%
3　家庭にインターネットの接続機器がない	145	33.0%	177	81.9%
4　有害なサイトへの接続が心配されるため	35	8.0%	36	97.2%
5　インターネットが何なのか、よくわからない	74	16.8%	67	110.4%
6　その他（記述式）	35	8.0%	28	125.0%
無回答	24	5.5%	31	77.4%
合計	587(440)	133.4%	619(483)	94.8%

（　）内は回答者数



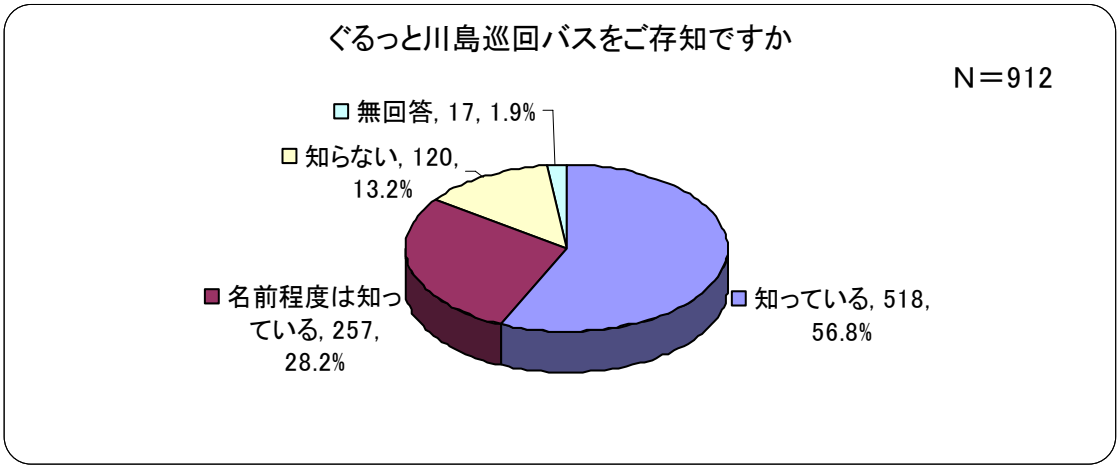
②　「ぐるっと川島巡回バス」について

問 22　「ぐるっと川島巡回バス」は、町内 80 か所にバス停を設置し、４つのコースで運行しています。あなたは、ぐるっと川島巡回バスをご存知ですか。（答えは１つ）

問 22 の質問に対しては、56.8%の方が「知っている」と回答しており、「名前程度は知っている」と回答した方も 28.2%という結果であった。しかしながら、「知らない」と回答した方も 13.2%という結果となった。

前回調査との比較では、「知っている」と回答した方が増加し、「知らない」と回答した方が減少している。このことから、少なからずも周知できていると考えられる。

項　　目	2011 調査		2008 調査	前回調査との対比
	実数（人）	構成比	実数（人）	
1　知っている	518	56.8%	463	111.9%
2　名前程度は知っている	257	28.2%	277	92.8%
3　知らない	120	13.2%	165	72.7%
4　無回答	17	1.9%	17	100.0%
合計	912	100.0%	922	98.9%

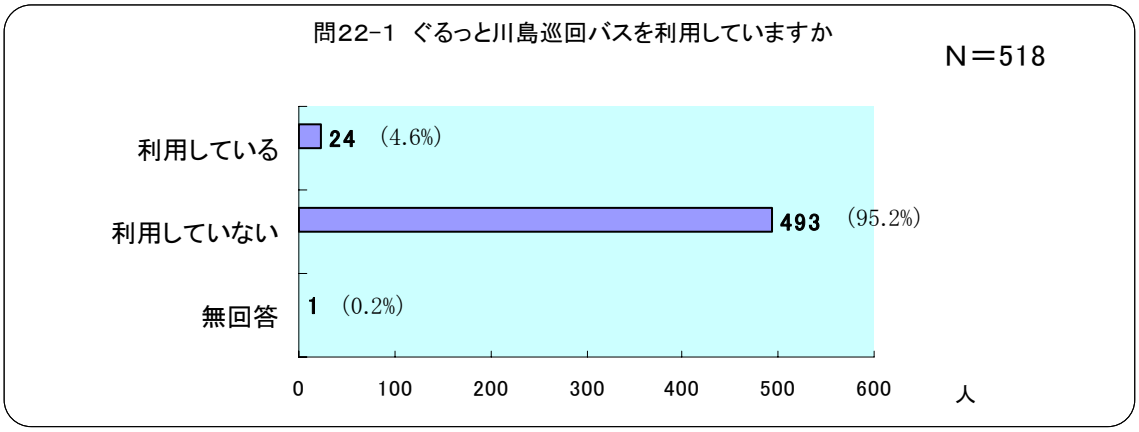


問 22ー1　「ぐるっと川島巡回バス」を利用していますか。（答えは１つ）

問 22 で「知っている」と回答した 518 人に「ぐるっと川島巡回バスを利用していますか」と質問したところ、「利用している」と回答した方は 4.6%と極めて少ない結果となった。

前回調査との比較では、大きな変化は見られなかった。

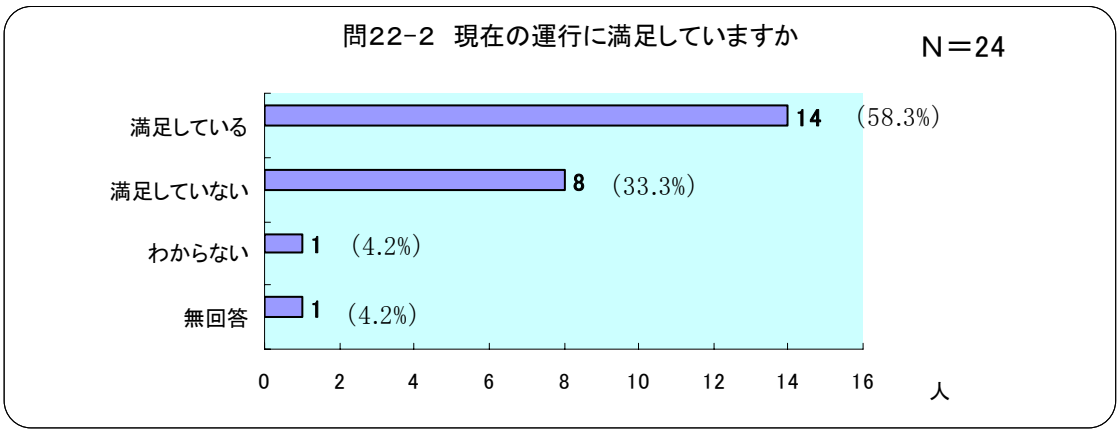
項　　目	2011 調査		2008 調査	前回調査との対比
	実数（人）	構成比	実数（人）	
1　利用している	24	4.6%	25	96.0%
2　利用していない	493	95.2%	436	113.1%
無回答	1	0.2%	2	50.0%
合計	518	100.0%	463	111.9%



問 22ー2　現在の運行状況に満足していますか。（答えは１つ）

問 22 - 1 で「利用している」と回答した 24 人に「現在の運行状況に満足していますか」と質問したところ、「満足している」と回答した者は 58.3%で、「満足していない」と回答した者は 33.3%であった。

項　　目	2011 調査		2008 調査	前回調査との対比
	実数（人）	構成比	実数（人）	
1　満足している	14	58.3%	14	100.0%
2　満足していない	8	33.3%	9	88.9%
3　わからない	1	4.2%	2	50.0%
無回答	1	4.2%	0	100.0%
合計	24	100.0%	25	96.0%

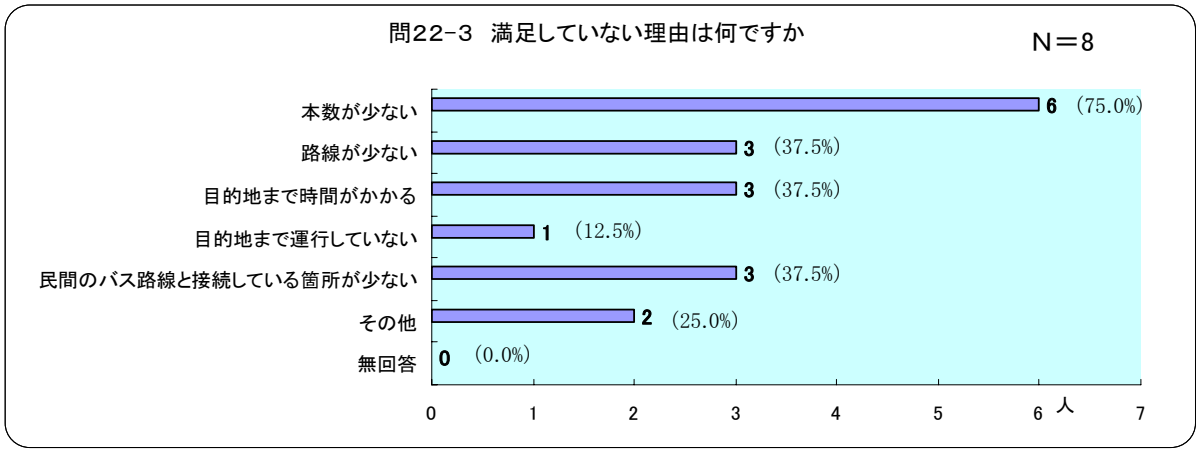


問 22－3　その理由は何ですか。（あてはまるものすべて）

問 22－２で「満足していない」と回答した９人にその理由を質問したところ、標本数が少ない中での複数回答となるが、「路線が少ない」、「民間バス路線と接続している箇所が少ない」と回答している者が多く、次いで、「本数が少ない」、「目的地まで運行していない」ことがその理由であった。

項　　目	2011 調査		2008 調査	前回調査との対比
	実数（人）	構成比	実数（人）	
本数が少ない	6	75.0%	4	150.0%
路線が少ない	3	37.5%	5	60.0%
目的地まで時間がかかる	3	37.5%	1	300.0%
目的地まで運行していない	1	12.5%	4	25.0%
民間のバス路線と接続している箇所が少ない	3	37.5%	5	60.0%
その他	2	25.0%	6	33.3%
無回答	0	0.0%	1	0.0%
合計	18(8)	225.0%	26(9)	69.2%

（　）内は回答者数



②　役場本庁舎の建設について

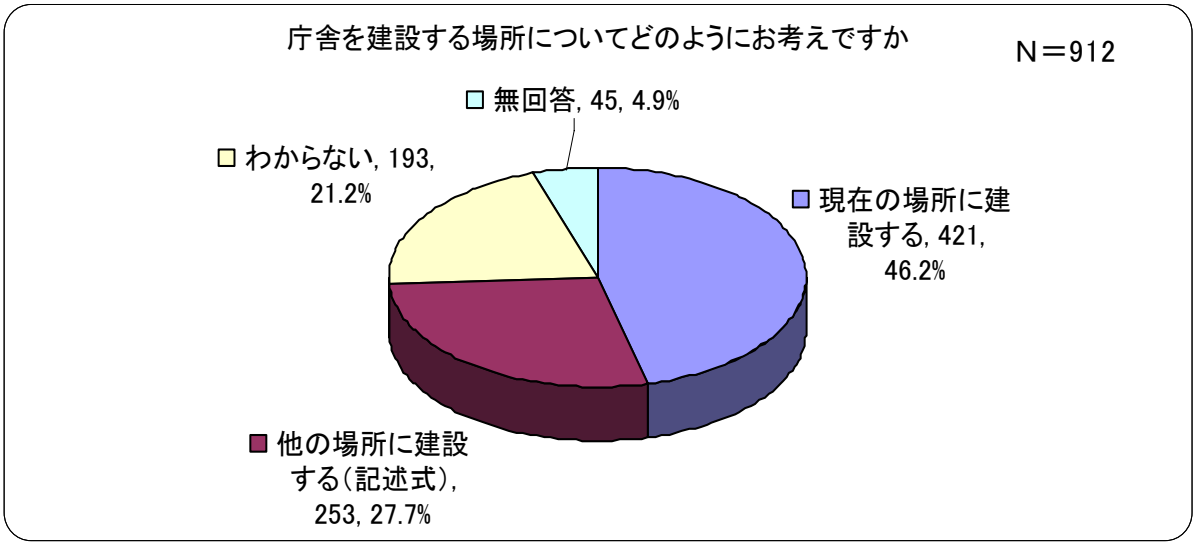
町役場本庁舎は、昭和 31 年 11 月に建設されたものであり、その後幾多の改修を実施しながら現在に至っております。しかし、耐震診断結果では基準を満たしておりません。このため、災害時の防災拠点としての機能をもつ庁舎建設を検討しております。

そこで、次のことについておたずねいたします。

問 23　あなたは、庁舎を建設する場所について、どのようにお考えですか。（答えは１つ）

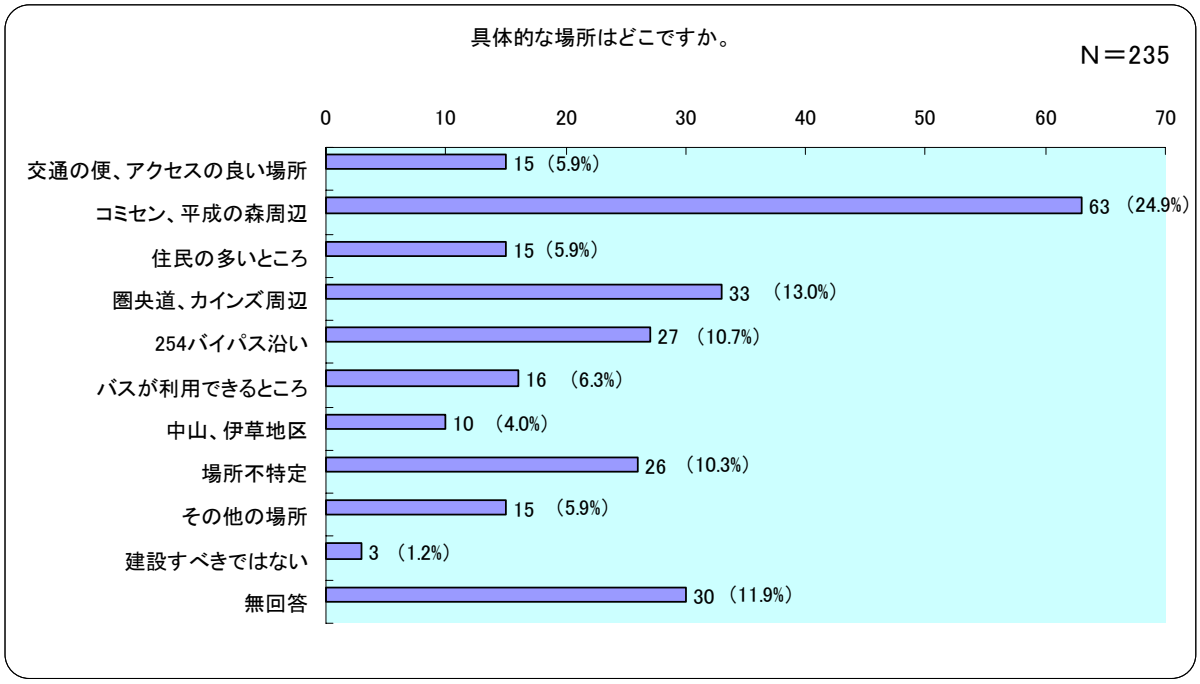
問 23 の質問に対しては、46.2%の回答者が「現在の場所に建設する」と回答している。また、「他の場所に建設する」と回答した者も 27.7%あり、場所については記述式となるが、「コミセン・平成の森公園周辺」が一番多く、次いで「254 号バイパス沿い」、「圏央道・カインズ付近」と回答する者が多かった。

項　　目	2011 調査		2008 調査	前回調査との対比
	実数（人）	構成比	実数（人）	
1　現在の場所に建設する	421	46.2%	398	105.8%
2　他の場所に建設する（記述式）	253	27.7%	223	113.5%
3　わからない	193	21.2%	158	122.2%
無回答	45	4.9%	143	31.5%
合計	912	100.0%	922	98.9%



※次頁に、「他の場所に建設する（記述式）」の集計表を掲載しています。

●「他の場所に建設する（記述式）」集計表



平成 23 年度川島町町民意識調査報告書

平成２３年１２月

問合せ　川島町政策推進課秘書グループ

℡049 - 299 - 1751